

The Japan Institute of
Architects Kyushu branch
公益社団法人 日本建築学会九州支部

DEC.2021

BULLETIN Kyushu BRANCH

九州で活躍する建築家のための情報誌

Contents

支部長挨拶	P2
オピニオン	P3-P5
支部長漫遊記	P6-P10
おしえて	P11-P12
とりせつ	P13-P14
あのこと	P15-P17
トピックス	P18-P19
よかもん	P19-P20
デザインレビュー2022	P21
わさもん	P22
委員会報告	P23-P26
地域会活動報告	P27-P42
編集後記	P43



FUKUOKA



KUMAMOTO



NAGASAKI



NAGASAKI



KAGOSHIMA



KUMAMOTO



NAGASAKI

KAGOSHIMA



KUMAMOTO



KITAFUKUOKA

支部長挨拶



松山 将勝（九州支部長）

2021年も残り僅かとなりました。昨年から続くコロナ禍も終息に向かっている状況なのか、変異株による第6波が到来するのか、未だ先の見えない状況が続いていますが、九州支部では安全対策を講じながら対面での活動を少しずつ再開している所です。

12月14日は、本部理事会が対面で開催されました。支部長就任以来、初めて東京神宮前の建築家会館に出向き、リモートでは何度もお会いしていた理事の方々「はじまして」と言いながらの初対面はなんとも不思議な感覚でもありましたが、淡々と議題が流れていくリモートでの理事会とは違い、各支部から活発な意見が出された今回の理事会の様子からも、対面の重要性を感じると共に、九州支部を代表して参加している重責を改めて感じた次第です。

既に会員の皆さんのお手元にも届いているかと思いますが、「設計BIMワークフローガイドライン建築設計三会（第1版）」が発行されました。実務者向けの非常に分かりやすいガイドラインになっていますので、今後の業務対応に向けた参考にしていただければ幸いです。全国的にも少数の設計事務所が多いJIAでは、BIM導入の設備投資が普及の妨げになっている事も大きな議論になっています。一方で、国交省はBIM推進に大きく舵を切っており、やがてこの波は市町村の公共施設発注においても設計条件として課せられる時代が目の前に来ている事も見逃せない事実です。福岡県では建築設計関連団体が歩調を合わせてBIM化の対応に取り組むべく福岡建築倶楽部（建築設計関連8団体）にてBIM推進協議会が立ち上がり、合同勉強会などの議論が始まっています。九州支部においても会員の皆さんと情報共有しながら、この課題に取り組んで参ります。

昨年の10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指す事を宣言しました。また、改正省エネ法では小規模建築（300㎡未満）においても説明義務を課せるなど対象が拡大され、私たち建築家の取り巻く環境は大きく変わろうとしています。JIA本部ではカーボンニュートラル連続セミナーを開催していますが、直近のセミナー登録数が800名を超える人数であった事からも関心の高さが伺えます。先日第2期3回目のセミナーが終了したばかりですが、今後もこのセミナーは続いていきます。次回開催の

案内もメールにて配信致しますので、多くの会員のご参加をお待ちしております。

2015年の「建築士法の一部を改正する法律」では、設計等の業務により生じた損害を賠償する保険契約の締結が努力義務となりました。建築家として社会的責任を果たすため、設計業務によるトラブルの事例や対応、ケンバイ（JIA建築家賠償責任保険）の補償内容を今一度確認する勉強会（WEB）開催の準備を進めています。自らの身を守るという観点から知っておくべき内容ですので、勉強会への参加をお待ちしております。日程が決まり次第、会員の皆さんにご案内申し上げます。

ここからは支部活動の話題に移りますが、11月12日（金）に長崎地域会が主催となり支部長漫遊記を開催しました。今回は長崎在住の若手建築家3名と長崎にゆかりのある新進気鋭の構造家3名という異色のメンバーでのディスカッションは深夜まで続き、今後の長崎の展開が非常に楽しみな機会となりました。詳しい内容はこの後のレポートをご覧ください。

11月20日（土）には、北福岡地域会主催の日韓学生ワークショップが開催されました。今年で23年目となるこの事業は、北福岡地域会が長年に渡り取り組んで来られた国際交流活動です。今年度は九州の大学から6校、韓国の大学から5校の計11校（14チーム）が参加し、建築家の魚谷繁礼氏（2020年度JIA新人賞）をお招きして「保存でも開発でもない継承のあり方」をテーマとした発表は、どれも見応えのある作品ばかりで、白熱した議論が交わされました。特に今年の課題は、日本の学生には釜山のソマク村、韓国の学生には小倉の旦過市場を敷地の条件とした事で、学生が互いの国の文化や風土を学んだ上で建築を創造するプロセスは大きな成果であったと思います。コロナ禍での開催は、安全対策など準備も大変であったと思います。開催にあたりご尽力いただきました皆様に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

最後になりますが、今年も大変お世話になりました。

皆様、良いお年をお迎えください。

2020年が皆様にとって希望溢れる年になりますように。

名誉会員になって

コロナ禍もようやく沈静化してきましたが、さらに手強い変異株が出現してぶり返すかもしれず予断を許しません。感染の心配がなくなり全国大会が開催される時期に会場でメダル授与された方が有難みを感じるのかもしれませんが、体調も含めて先行き不透明な事から今年有志会員の皆様のご尽力で名誉会員の仲間入りをさせて戴きました。厚く御礼申し上げます。

磯崎新アトリエに14年間と長くお世話になった為独立が遅く1985年に事務所を設立し、J I Aが1987年新日本建築家協会と改組した年に入会し現在に至っております。今になって思うと事務所運営を含め随分無鉄砲な生き様をしてきたなと思うばかりです。生まれも育ちも学校も勤め先も関東、女房も関東出身で親族他縁もゆかりもない福岡での独立でしたが、J I Aの良き仲間に加えられ今日までやってこられたのだと感謝しております。私の今までの人生の半分近くはJ I A会員としての歴史と共にあったわけです。その間に2度の全国大会に携わりそれなりに努力したつもりですが、ただ組織の在り方についてはいつも疑問符を付けておりました。

建築家制度、建築家法、世界に対応した組織、社会への認知等こうあって欲しいこうあるべきだという理想を理論構築して目指すこと自体は誰も否定するところはありません。しかし日本の現実を直視した時その実現性は極めて厳しいと言わざるを得ません。その理由としては釈迦に説法になりますが、建築士法が国家資格試験制度、CPDなども含め歴然と機能している事。設計施工が存在しそのシステムの中の設計者も優れた設計者が存在する事。J I A会員でなくても世界で活躍する建築家はいくらでもいる現実、お手盛りの審査で建築家の集まりを標榜する会に入会してもそれだけでは世間は建築家とは思わない事。社会は法や制度等かわりなく優れた作家を建築家と尊敬の念をもって称し認知している事等



西岡 弘 (福岡地域会)

が上げられます。

全国で3000人程度の会にもかかわらず規約会則の精緻さ、理事会に始まり審査会、委員会、〇〇会議それに付随しての分科会等があり活動ごとの組織の多さ複雑さに呆れます。組織が規約に縛られ誘導されるようになるとその組織は魅力を失い次第に惰性化していく事は自明の理です。久しぶりに対面型での支部役員会に出席しましたが、規約の改正やら審議と協議に分けて何を話題にしても規約や会則のどこどこに抵触する等が前面に出てきて延々と組織に絡めた議論になり、各地域会の報告など時間の関係から最後に取り急ぎ行うという有様です。今や規約や制度に詳しくそれによってすべての議論をリードする事が会の活性化に不可欠のように感じているようです。

私たちは過去から学び未来にそれを生かしていく事で歴史に学ぶとはそういう事ですが、規約や制度に縛られるという事は歴史に縛られるという事でもあるのです。従って規約制度に振り回されるという事は創造活動とは本来馴染まないはずなのです。

制度規約を厳格に定めそれを守らせる事は、それを司る組織の長の権限の強化それを支える周辺の役職者の権限発言力を知らず知らずのうちに強くしあるいは依存していく流れ兆候であり、本部からの指導通達に頼ったりお伺いを立てたりなど、自由人としての作家の集まりとはどんどん乖離する危険な方向にあると私は憂慮しています。三権分立がバランスよくある事が良い国の在り方ですが、営利団体組織ではないJ I Aという組織も似たところがあり、行政と司法の役割が未分化しているところはあっても同じ事が言えると思います。今の形は組織の構成員の数のわりに立法が喧しく、それを執行する行政の発言力が頭でっかちになっている形でバランスが取

れていない状態ではないでしょうか。従って高い会費もそちらで食いつぶされているのが現況です。

人間の好みや価値観は案外早く変わりますが制度やそれに基づく組織はなかなか変わらないと言います。それは組織のリーダーや執行部が変えたがらないからです。不都合な部分はマイナーチェンジで切り抜けようとするのです。普通の会員から登録建築家制度さらに登録建築家をJ I A会員外も登録可能とするといった議論が出ているとの事ですがこれも同じです。まさにJ I A崩壊のシナリオです。高い会費を払って会員になる必要がなくなるからです。屋上屋を重ねてきた上にさらに屋根を架けるようなものです。デフォルトつまり初期設定が間違っていれば辻褄合わせしても綻びが出てくるのは当然です。

会にはいろいろな考えがあつて然るべきですが、精緻で正確さを是とするJ I Aの会則にしては、ただ成立の経緯の違いだけで会費免除の名誉会員と一般会員と同じ会費の名誉会員があるのも合点がいきません。集金上都合の悪い事は頼かむりしておくという姿勢です。他の建築関係団体と比べてかなり高い会費で会勢もじり貧となれば一言言いたくもなります。

御承知のように画家や音楽家等家（イエ）族が試験を受けてその呼ばれ方がある訳ではありません。従って建築家も同様です。たまたま海外がイメージするところのアーキテクトを建築家と訳したために建築士との齟齬を生じたわけです。どのみち資格試験をどんなに工夫しても試験で判断するのは日本の場合士族であつて建築士で良いのであり必ず保持すべき資格となっていますが、必ずしも日本的建築家名称で考えるなら建築士資格がなくても建築家は存在できるのです。

建築家法と建築士法のダブルスタンダードは国交省が認めるとは思いませんので、妥協策としては1級建築士であるとともに優れた作家性を持ち誰もが建築家と呼ぶにふさわしい人を選ぶ仕組みができれば良いわけです。芸術院会員の民間版のようなものです。従っていろいろ活動する団体ではなく選ばれる事自体が目的の団体になれ



松山支部長と記念撮影

ば良いのです。しかしそれとて確たるものにはなりません。芸術院会員だけが芸術家ではないのと同じですが、今のJ I Aのような宙づり状態の会よりは地に着いた会になるのではないのでしょうか。どのみち家（イエ）族は法的根拠を有しないのですから。

私の考えでは作品、社会貢献、教育、キャリア、この4項目に子細なチェック項目を用意し公平性を担保した審査会で厳選して会員としていく。華々しい受賞歴のある人は若くして会員になれば、普通に設計活動してきた人は残りの3つの項目で点数を稼ぎある年齢で会員になっていくようにするのです。会員は2000人でも1000人でも良いのです。又、建築家として実務以外で社会に寄与する仕事は限られたものでよく、今のように何でもかんでも首を突っ込む事はないと思います。

70歳を過ぎると昔はよかったという常套句が出るあるいは価値観になるようですが、建築家協会について言うなら私が支部長の昔から既に良くもなかったのです。かつて前身のJ A Aの時渡辺武信や宮脇檀が会館のホールでパイプをくゆらしグラスを傾けて雑談していたという会では既になく、規約や組織論を口角泡を飛ばして語る人達の世界になっていました。著名な建築家も会員に名前を連ねていましたが、双方の思惑から名目上会員であつただけで、会館に出入りして前述の2人の例のような姿を観た事はありませんでした。

私は始めから仲間内で建築談義ができ作品発表の機会

を持てるサロンであれば良いと思っていました。そのため登録建築家なども納得がいかないのでいまだに登録しておりません。本部の在り方にずっと異議申し立てしてきた会員なので名誉会員と言っても不肖な会員です。高い会費は引退した後の年金生活者には結構な金額であり、金銭的にゆとりがなければ高齢化と共に退会せざるを得ないでしょう。むしろ本部は榮譽を与えたのだから名誉会員こそもっと払えと言った意向が見え隠れし推挙を手放しでは喜ばません。芸術院会員のように年金が付くとまでは言いませんが、せめて厳選された会員が何歳以上になったら会費免除あるいは大幅な減額としてもらいたいものです。

サロンと言ってもパトロンを充てにした古色蒼然とした過去のサロンでは通用しないでしょう。もっとも会費の半分を本部に吸い取られ賛助企業の会費で成り立っている九州支部はその点ではサロンと言えなくもないのですが。コロナ禍で加速されたウェブ会議などコミュニケーションツールも変わってきています。社会の変化、技術の変化に対応しつつ進化したサロン論が必要かもしれません。サロンとは良き刺激を受ける場であり創造の推進力です。創造活動において磯崎新さんや安藤忠雄さんのような1番手の人は群れる事を必要とせず2番手はサロンに群れて刺激を受けて創る人3番手は群れずにひたすら書物や実績から学ぶ人4番手は群れて同じ事を繰り返しあらぬ方向にエネルギーを使う人と続くのでしょう。勿論サロンとて創造的に進化していかなければ墮落し動脈硬化を起こします。

災害対策もSDGsも温暖化対策も自身の建築設計でメッセージを伝えるべきで運動や社会活動で訴えるなら



名誉会員メダル授与式と御祝いの会にて 2021年11月11日

政治家や役人になった方が効果的です。

しかしいろいろ愚痴をこぼしても喜寿を迎えて体力も知力も財力も追いつかないのですから仕方ありません。J I Aに関してはこれからの若い人達執行部についていくしかないと覚悟を決め、退屈な役員会もそのあとの有意義で楽しい直会の為の苦行だと観念し、晩節を汚さないように自身の終活をどうするかを考えていこうと思っています。

大学も退職し、事務所も閉じた現在私の活動は皮肉な事にJ I A活動の中ではなく、私が今一番楽しく力を入れているのは事務所協会主催の学生競技設計の課題制作者兼審査委員長の仕事です。もう一つは1, 2級建築士の資格取得のマイナーな学校で学科と製図を教えているのですが、製図試験の課題について模範解答を見ずに私自身で独自に回答を作る作業です。大手資格取得学校の模範解答は総じて時間をかけ数人で作っているのでしょうか。試験の時間内ではこんなスパン割や配置計画は思いつかないというものも多く、概ね自分の案が正解だと勝手に思いながら楽しく作業しています。いずれにしても実務から離れて久しく学生コンペの作品を見てあるいは課題を作るごとにイメージが沸々とわいてくるのは設計禁断症状とでも言えるかもしれません。

今年卒寿を迎えられた師の磯崎さんはヒンズー教やバラモン教の古い教えにある人間の一生を4期に分けた四住期の最後の遊行期に入っておられるのでしょうか。何年か前に沖縄に移住されたのですが、沖縄支部のJ I A会員の情報から、それまでの近寄りがたい雰囲気から随分違ってきているようで遊行期であればこそと思います。私も何とか林住期を全うし遊行期まで到達できればと思っています。ほとんどの会員は家住期を過ごしておられるわけですが、私自身終わりの支度—終活の中でも今しばらくJ I Aに貢献できる事があれば一緒に汗を流していきたいと思っています。今後とも引き続き変わらぬお付き合いをお願いしてこの拙文を終わりたいと思います。

支部長漫遊記 IN 長崎

支部長漫遊記 3 回目は長崎市茂木町のホテル「月と海」を貸切りで行いました。



会場「月と海」夜景と室内・案内サイン

最初に、若手建築家 6 名を支部長が斬る！というスタイルで進めたいと田中長崎地域会長が宣言。

松山支部長より、鹿児島・熊本と周ってきて将来有望な若い建築家が多いのに驚きました。九州では建築家のつながりが比較的多いと感じていますが、同時に地域を超えた議論の場や機会が少ないとも感じています。

この企画は若い建築家が集まって、議論する場を設けるというのですが、この企画をきっかけとして九州の若い世代がつながり、切磋琢磨の関係によって九州建築界の未来へつながる一助になればと始めた企画です。



挨拶する松山支部長

今日は建築家と建築・土木構造家も登壇すると聞いていますので、構造家が建築に与える力や構造家が何を考えプロジェクトに参加されているか等非常に興味深いですし、いつもとは違う異色のメンバーがそろっていて楽しみです。支部長が斬るといふか、斬られる



鼻崎 象三（長崎地域会）

かもしれないので、若手VSベテランというスタイルになるかもしれませんが、これからの時間を楽しんでいきたい。と挨拶があり、この後なんと 4 時間半も続きました。

【MORアーキテクト 一丸康貴さん】※JIA会員

前職時の稲佐山斜面輸送計画について、稲佐山のどの位置に建設するか未定のままの発進であり総合仮設計画もしないといけない等、たいへんなプロジェクトであった設計プロセスや、住宅のリノベーション、マンション計画、リヤカープロジェクトなどを発表。



発表する一丸康貴さん

支部長斬る？

マンションのバルコニーの提案は新しい試みかもしれませんが、それだけではマンション建築の根本は変わらないと思うし、建築そのものの仕組みや集合住宅のプログラム自体から変えていくような提案を期待したい。今日の一連のプレゼンを聞いて一丸さんはその力量を持っているはずなので、そこは逃げずにトライしてほしい。

リヤカーについては、新たな概念を持ち込んでいるアプローチがいいですね。リヤカーでの志向性は建築でも展開できるはずだし、今後の建築の着想に結び付けてほしいです。

とはいえまだ 34 歳！上手くまとまらず、まだまだ破天荒に暴れまわってほしい。(笑)

【青木建築設計工房 青木康浩さん】

独立後大学の友人宅を皮切りに、洋菓子店、バイクガレージ付きアパート、スキップフロアアパート、多数の住宅を手掛け、一連の建築を発表。現在はかなり忙しく、地域に必要とされる建築家を目指しています。



発表する青木康浩さん

支部長斬る？

青木さんは、一見得体のしれない雰囲気があり、自身の世界観でしか仕事はしない人かなと想像しましたが、その第一印象とは違いかなりの仕事量をこなしている事に驚きました。

40歳はまだ進化の途中であると同時に、建築家としてのスタンスを確立していく年代でもあると思うのです。発表作品の殆どが工務店から依頼だとすれば、仕事が無い30代はそれでも歯を食いしばって生きていかなければならない現実はとても理解できるけど、建築家は直接依頼がくるような存在価値を高めていかなければならない職業だと思し、自身のスタンスを確立する事で、青木さん自身のブランド力も高まっていくので40歳を転機に、これから建築家としてどう生きてゆくの、その覚悟も含めて考える時期だと思います。

【INTERMEDIA 佐々木翔さん】

私の事務所では、それぞれのスタッフが能動的に考え議論してよりよい建築を造っていくというスタイルでやっています。

最初に手がけた保育園のケースですが、グリッドを並

べ、それぞれのグリッドの開口の大きさを変えることで、大きな開口部は園児のエリア、小さいところは教員のエリアとしました。その場所に立つと各用途の雰囲気を感じられるような空間ができてくるのではないかと考えたわけです。

もともとあった田んぼの風景と家並みが続いていく風景を取り持つ住宅の建て方ができないかを考えた物件もありましたがこれは実現しませんでした。

敷地に湧水がわいていた住宅の設計では、何とかこの湧水を利用できないかと考え、雨水排水側溝をオープン化して、5センチ程度の薄い流れを作りました。堰板をとったり外したりすることで流れを変え、足を洗ったり野菜を洗ったりする場所、土間に水を張ったりする事、内水として利用する等を想定しました。島原には水屋敷という文化がありますので水を使った計画をしました。

基壇地形の敷地を生かし改修をした物件では、子供たちが遊ぶ場所とオフィススペースが基壇の上下で別の空間を造っていけるのではないかと考えましたその他大村でのプロジェクト、保育園、西海市のプロジェクト等と共に、母性原理と父性原理という言葉で、敷地に対する考え方も発表しました。



発表する佐々木翔さん

支部長が斬る？

30代で明確な建築思想を持っている事の驚きと、それを言語化できる能力の高さに脱帽といった感じです。(笑)佐々木さんは学生の頃から既に頭角を現していたと聞いています。建築の実務は発注者からのリクエストや予算と闘いから自由な創造力が奪われていく局面に立たされる事が多いのですが、それすら楽しんで最終的には佐々木ワールドに持ち込む強度がある。設計条件を言い

訳にせず、導きたい建築をどうすれば実現できるか。その一点に膨大な労力を費やしている痕跡が作品を通して見えるし、建築家のその執念や態度が施主や施工側の心を動かすという事を信じてやっている確信犯だと思う。(笑)

そして語らずにいられないのは活動拠点が島原という事。地方で活動している建築家から学生が来てくれない悲鳴とも言える現状がある中で、田舎を拠点として信明さん(父)と共に闘える集団をつくっている事も多くの人に知ってもらいたいし、九州では稀有な存在だと思います。

褒めてばかりで気持ち悪いと思うが(笑)最近僕が九州建築界の未来は明るいと言っているのは、この支部長漫遊記をとおして、こうした意識の高い若手建築家と出会えたから。

今の佐々木さんがあるのはお父さんのおかげだから、これからも父へのリスペクトは忘れず、設計事務所の所在など関係なく価値観を大きく変えるような集団をつくってくれる事を期待しています。

【ネイ&パートナーズジャパン木村洋介さん】※構造家

今回のテーマは建築と土木の間です。

今はまだどちらをやりたいわけではありませんが、土木構造家(エンジニア)として力を付けたいと思っています。所属会社も土木に軸足を置いており、橋梁などの設計を手掛けています。会社のプロジェクトとしては、建築と土木の間のところ、どちらでもない、建物と建物の間をつなぐ歩道橋など扱っています。

今日は建築の方々のみで叱られることもありませんから、土木の設計に対して思っていることをお話しします。

橋梁デザインの抱える問題は、高度経済成長期に均質的な指標を作った際、橋梁メーカー主体の効率的な設計になってしまったことです。建築はファブリケータです

が土木は橋梁メーカーになります。土木は製品だと思っているくらいがあると感じています。メーカーが作った計算ソフトによって設計するので、誰がやっても同じになります。意匠が語られるのは景観のみで、議論する場も閉じられています。意匠と構造が統合的に議論されない事によってエンジニアの技術が低下していると感じます。設計者の個性が表現しづらく批評文化に乏しい業界です。今のシステムでは今回のこのような場は土木の世界では永遠におこなわれません。誰かの作品を正義感を持って批評する文化がないのです。

日本の土木設計事務所はいくつもありますが、私の知る限りほとんどランドスケープが関与しており、ストラクチャーをデザインするところはありません。ストラクチャーはコンサルがやり、完全に隔てられていて踏み込める領域が少ないのです。

今いろんな方々とつながりがあって土木の領域にいますが、そこから土木の文化をしっかりと創っていき、建築のように批評し合って社会のために高め合っていけるような土木文化をつくりたいと思っています。

現在のプロジェクトを少しだけお話します。再開発のディベロッパーさんと組んでいますが、ディベロッパーさんは街に対してどういう事ができるのか考えながら開発を進めている側面があります。そういうニッチなところに私たちのような小さい会社ははいりこんでやっています。プロジェクトは、建築上に架橋される建築と建築をつなぐもので、地下鉄の駅の上にある歩道橋です。地下鉄の構造物には荷重をかけられないという条件のプロジェクトです。長崎駅のキャノピー設計等もやっています。



発表する木村洋介さん

建築はすでに、日本文化の一躍を担っていると思うのですが、土木は残念ながらそうはなっていません。橋梁など遠い存在だしテクノロジーはすごいのですが、まだ文化としてはとらえられていないと思うのです。私はこれからの活動を通して文化になるようなプロセスを踏んでいければと思います。その為には建築との融合も必要ではないかと考え、そうした活動をしています。

支部長が斬る？まったく斬れない？

土木の世界での構造の話しに、ただただ感心して聞いている支部長！川津さんの言葉を借りると、引導を渡され平伏するといった感じでした。By鼻崎

【XYZ s structure 荒木康佑さん】※構造家

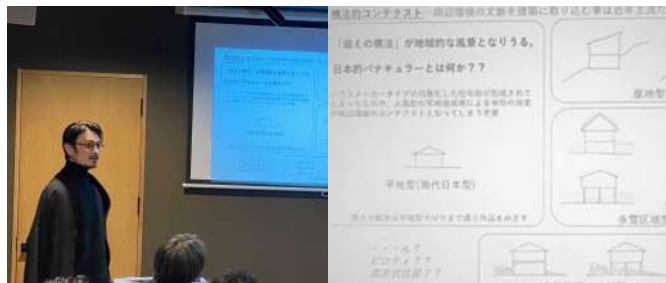
議論する場だと聞いてきたので、今一番興味があることを話したいと思います。

日本は災害大国であるのに、全然災害に備えていません。備えの工法といいますか、川・山・崖等の近いところに、風景になるような工法があるはずと思っています。それなのにどこの場所でも均質化された建物が多く非常におかしいと思っています。たとえば洪水エリアだったら高床式があるように、風景とか地形を利用しながら工法に読み込んでいくことで、その地域の形がでないか考えて活動しています。

災害エリアは洪水・崖などいろいろあると思うのですが、日本にも弥生時代に高床式住居があったように、日本のヴァナキュラーはピロティではないかと思っています、そこに興味があります。いろんな災害にピロティが機能するはずなのですが、日常的にはあまり有効的に使われていない気がします。それでは風景・地形を利用したことにはなりませんので、常時の使い方に日常生活がにじみ出るような、建築的な解釈が持ち込めないかと考えています。

過去に関わった複数のピロティを持つ建築を紹介します。土砂災害エリア・浸水エリアにあたる敷地で、鉄骨

の1階部分（ピロティ）に木造の平屋を載せた建築、台風区域型の敷地で風を受け流す形の建築、積雪区域の敷地にある建築、崖地型の敷地にある建築などが発表された。



発表する荒木康佑さん

支部長が斬る？またまた斬れない？

荒木さんには僕の建築の構造も依頼しているので、かなりやりにくいなー（笑）

構造家の視点が明確に見えておもしろかったけど、1点気になったのは余白（ピロティ）を設けることで、そこにそれぞれの活動が生まれる、と言葉として表現することがありますが実際はそう簡単にはいかない。建物を持ち上げる事によって生じるグランドレベルの余白を、私的な領域を超え新たな領域へとどのように導いていけるかという議論は、建築家の定番とも言えるお題ですが、それを構造家と議論するというのはかなり新鮮で、構造家も表舞台に登場してもらいフラットな場で議論する機会もぜひつくりたいですね。

【円酒構造設計 円酒昂さん】※構造家

難しい議論にはなりますが、施工性とか冗長性とか美しさ、またAIができない分野などに興味があります。

前職でレンガを使った物件ですが、レンガは強度がFc110くらいありコンクリートより強いがもろいので、レンガを主構造にせずサブストラクチャーとして使いました。面白かったのはレンガなど廃れた素材、技術も使えることが解ったことです。

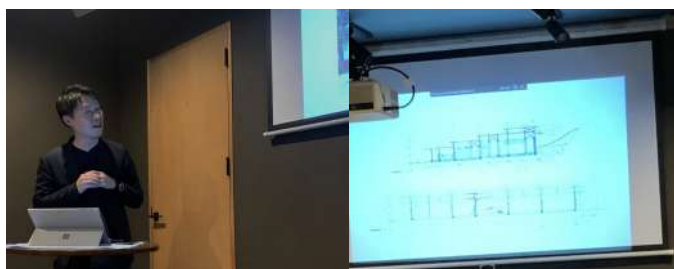
床を薄くする事（45ミリ）、柱を細くする事（40ミ

り)をテーマにする事で構造部材を感じさせない、手摺とか家具みたいなスケールにしたかったというの也有ります。例えばスキップフロアにして座屈長さを短くし柱を小さくし、なおかつ階段を耐震要素にする等で実現しました。

後方に高層部があるホテルの低層部の設計では、高層部の柱が1mの柱でした。この場合1mのグリッドで鉄骨の最小断面で造り、高層棟の柱と低層棟の柱のコントラストとの対比が面白いのではないかと微細な構造を造りました。同じ外径の柱でも、希薄な空間、外か中か解らないような建築を造ったわけです。

合理性は何を目的にするかで異なります。複雑な条件を設定する事で、AIにできない事をやるのが一番面白い。個性が出ます。難しいことをやるには、全部自分で説明しないとイケません。

素材のヒエラルキーがないような、木造なら木造、RC造ならRC造、鉄造なら鉄造みたいな概念を捨てたいですね。今後は、いろいろな素材を使った美学みたいなものを目指したいと思っています。



発表する円酒昂さん

支部長が斬る？やっぱ斬れない？

今日の6名の登壇者で3名が新進気鋭の構造家というのは、田中会長が冒頭に言われた支部長が斬る！という企画ではなく、実は支部長が斬られる！という企画であったと思います(笑)

構造家の発表に感心するばかりで、次回はクリティークできるように鍛錬して出直してきます(笑)



会場風景

最後に

私達の職能には、意匠計画とか技術計画のような側面があると思うのですが、今回登壇頂いた方々には、それプラス何か哲学みたいなものを感じました。

30歳代でこのような考え方を持っている事に、非常に感心しました。でもまだ30代ですし、思いっきり何も考えずデザインして、デザインでお腹いっぱいになって、そして失敗して、反省して、勢いがあって全速力で突っ走っていくような側面もあっていいのかなとも思いました。by鼻崎



発表者たちの建築談義は深夜まで続いた

九州大学BeCATの取り組み

BeCATの理念と問題意識

・ BeCAT (Built Environment Center with Art and Technology) (*1)は、2021年4月に九州大学大学院人間環境学研究院に開設された「環境をテーマにした建築研究教育センター」の略称である。持続可能な都市と建築を実現するために、大学での研究成果を活用しながら社会実装してゆくことを目標としている。センター長としてOMAニューヨーク所長の重松象平氏を迎え、デザインラボ長として環境建築設計分野の第一人者である末光弘和先生、BeCATのために新しく加入した環境エンジニアの小原克哉先生、そして副センター長として末廣が参加し、その他多くのメンバーの協力を得ながら運営している。

・ 国際的に見ても、日本ほど多様な自然災害を経験し、季節ごとの気候変化が大きい国は珍しい。日本の国家資格や大学教育の中で、常に建築都市分野がエンジニアリングと結びついてきたのは自然な流れだったように思う。しかし一方で、各分野の研究内容が深まるにつれて内容がニッチ化し、専門外のことが理解できなくなって分野ごとの交流も少なくなってしまった。また研究者は専門化して建築の設計や施工の実務が分からないという状況も進んできた。また逆に実務側から見ても一体大学で何を研究しているのかが見えにくく、なかなか実際の設計や建設に大学での研究成果が生かされにくいという問題が起きてきたように思う。BeCATは、このように様々なレベルで分断が進んでしまった建築界を、環境というキーワードで再び結びつけるプラットフォームとなることを目指している。

多様なツールを用いた教育プログラム

・ BeCATの教育プログラムは、春・夏学期と秋・冬学期に行われる修士課程のスタジオと、夏休み、春休み期間中に行われ、九州内の学生であれば参加可能な短期のスクールで構成される。こうしたプログラムの一部は学外の学生にも公開されており、できるだけ社会人も対象にしたリカレント教育の機会も作る予定である。

・ 各課題においては、学生たちが作った提案について、必ず環境シミュレーションツールを使って検証し、一定のスキルが身につけられるようにしている。市販のソフトウェアに加えて、学内には独自の理論を使ってツールを開発できる教員もおり、最近ではオープンソース

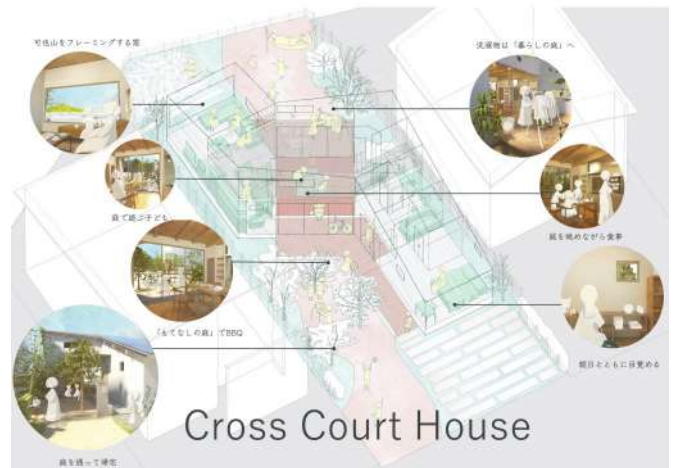
末廣 香織 (福岡地域会)



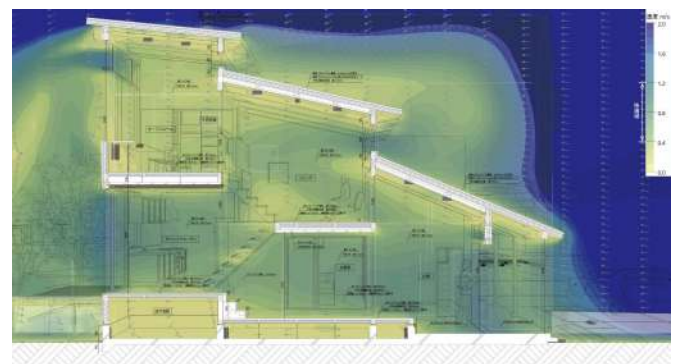
のツールも充実してきているので、それらを活用しながら授業を進めている(*2)。また環境だけでなく、構造・構法、都市計画解析ツールなどの活用についても準備中である。

社会実装課題を通じた人材育成

・ これまで取り組んできた課題は、全て具体的に社会実装することを目指している。前期スタジオで取り組んだJR九州住宅の「糸島の環境住宅」は、北に眺望が開けた高台の敷地だったために、室内の熱環境と眺望とをどうバランスさせるか、どう通風を制御するかがテーマだった。学生たちはその都度シミュレーションで効果を確認しながら、窓の配置や大きさなどを決めていった。これはウッドショックなどもあって当初の予定よりは遅れたが、建て売りのZEH住宅として来年夏に竣工予定である(*3)。



「糸島の環境住宅」最優秀案



糸島の環境住宅での通風シミュレーション

・ サマースクールで取り組んだコミュニティ機能を持つ木造酒蔵改修、杉能舎「酒蔵ガルテン」では、ご家族へのヒアリングをしながら、この場所での新しいビジネスとライフスタイルを提案した。また3Dスキャンで立体化した既存構造体のデータをもとに、その構造補強方法を検討した。この結果を受けて大まかな方向性が決まり、今後3年程度をかけて実現予定である(*4)。



©YashiroTetsuya

杉能舎酒蔵でのサマースクール

・ 2次審査が終わったばかりの「農学研究院100周年記念交流スペースコンペ」では、演習林から切り出された樹齢100年近い6本の杉丸太を使って農学部の記憶を継承する象徴的な提案が最優秀となった。これは来年度中に実現予定である(*5)。



九州大学農学部100周年記念交流スペース最優秀案

・ こうした課題は、どれも最終的には現実の建築になるので、自ずとコスト計算もシビアになるし、ビジネス的な視点も重要になる。学生たちは、リアルな積算も行いつつ、起業家、ブランディング、ファンドといったビ

ジネス分野の方々の話も聞きながらプロジェクトを進めてきた。こうした経験は、将来自分たちが建築と都市に関わる専門家として、それぞれの場所でビジネスを起すための糧となるだろう。

・ また一方で、BeCATの取り組みに建築実務家との連携は欠かせない。これまでも多くのJIAメンバーにご協力いただいていたが、さらに具体的な社会実装プロジェクトを進めるに当たっては、互いに協力しながら九州の建築界を盛り上げる仕組みも考えてゆきたい。

糸島という土地で考える持続可能性

・ 九州大学が移転した糸島は、近年魅力的な小さな町として世界的にも知られてきた自然豊かな地域である(*6)。この郊外移転は、世の中的には明らかに時代遅れだったが、むしろあまりに遅すぎたことと昨今のコロナ禍をきっかけとした価値観の変化によって、期せずして周回遅れで最先端に来てしまったような気もしている。拡張を続ける運命にある資本主義の限界が話題となり、インターネットという情報インフラさえあれば、どこでも同じような生活が送れるようになってきた。

・ BeCATの活動は、広い意味での「環境」をテーマにしている。環境工学理論の多くは、これまで寒冷地の気候を念頭に作られてきたが、温暖化でますます東南アジアの気候に近くなっている九州において、温暖湿潤な気候に適応した研究に力を入れている。また、木質材料やリサイクル材料の活用、地域の資産を生かすリノベーション・コンバージョンといった手法に、現代的なAIやシミュレーション技術、測量技術、機械加工技術などを組み合わせれば、地域の歴史や文化を守りつつ、脱炭素で地域循環できる新しいコミュニティの仕組みを構想し、美しい自然と調和した建築と都市の姿が描けるのではないかと。BeCATでの活動を通じて、幸せで持続可能な新しいライフスタイルを提示してゆきたい。

注・ (*1) 九州大学BECATウェブサイト

<https://becat.kyushu-u.ac.jp>

・ (*2) baues <https://baues.io> ,
Building Environment Design:
<https://building-env.com>

・ (*3) BECAT x JR九州住宅
<https://becat.kyushu-u.ac.jp/archives/986>

・ (*4) BECAT サマースクール2021
<https://becat.kyushu-u.ac.jp/archives/1784>

・ (*5) 農学部100周年記念コンペ2次審査
<https://becat.kyushu-u.ac.jp/archives/2403>

・ (*6) monocle: Bright lights, small city-
<https://monocle.com/magazine/the-forecast/2021/bright-lights-small-city/>

「建築家派遣エコルサポート」活動報告

「建築家派遣エコルサポート」は、子供たちを対象にした建築教育支援活動の一環として、2019年度に九州支部事業として発足した事業です。小・中学校の「総合学習」の授業に建築家がゲストティチャーとして参加して出前授業を行い、未来のある子供たちに対して、建築やまちづくりへの意識を啓発することを目的としています。今年度は第2回目となる活動を実施しましたので以下に一連の活動内容をご報告します。

総合学習の位置づけと発足からの経緯

小・中学校では新学習指導要領のもと、2002年度から「総合的学習の時間(総合学習)」がカリキュラムに組み入れられ実施されています。総合学習とは、子供たちが自ら学び、自発的に考える力を身につけ、よりよく問題を解決する資質や能力などを育むことをねらいとして実施されている学習活動です。

これまで総合学習における外部からの教育支援活動として、様々な専門家や団体により多様に取り組みされてきましたが、JIAとしても学校教育における建築やまちづくり学習の展開に地域の建築家として人材貢献できるものと考え、川津会員(前九州支部長)の提案により本事業が発足しました。

第1回目は川津会員と交流のあった校長先生との連携で、2019年度に福岡市立東住吉小学校6年生を対象に「校区のまちづくり」を課題に総合学習の授業サポートを行いました。

まちづくりの歴史を知ることから始まり、身近なまちを体験し調査し、自由な発想で理想のまちの模型を造り上げることで、自分たちが住むまちへの愛着とまちづくりへの関心が高まっていくのを実感しました。

コロナ禍の影響により昨年度は中止となりましたが、今年度は同校での第2回目として「小学校を建てかえる」を課題に全4回の6年生総合学習授業サポートを福岡地域会員と共に実施することとなりました。

西村友吾 (福岡地域会)



今回の活動の報告

初回の授業では、理想の小学校を思い描きテーマを考えるために、国内外の多様な小学校の事例を紹介して、新たな小学校についてのイメージの活性化を促しました。その上で学校内外の調査や取り巻く人々へのインタビューを行って、小学校に必要なものやあると良いものをまとめるようレクチャーをしました。



スライドレクチャーの様子

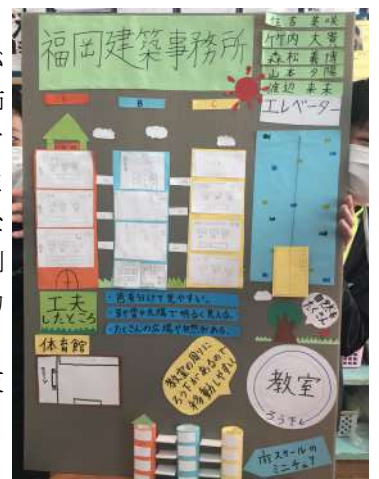
2回目の授業では、4名1組の6班に分かれてそれぞれの計画案をスライドで発表を行い、各案に対して講師らによる寸評を施しました。自由な発想で夢のある案から具体性をもった実用的な案まで各班の個性が垣間見えました。次回までに各班の構想を1枚のパネルにまとめて模型とあわせた成果物とすることを要請しました。

3、4回目の授業では、講師6名及び補助スタッフ6名による各班2名のサポート体制にて材料準備の上で模型制作に参加して、前回まとめた計画案を元に模型制作をサポートしました。



各班による計画案の発表

基本的には子供たちが主体で製作を行い、講師からは作り方の指導やアイデアの活性化を促しました。はじめは戸惑いながらも、それぞれの役割を見いだすと分担・協力して協働作業を行い、我々の誘発にも柔軟に反



構想をまとめたパネル

応じてイメージを発展させたそれぞれの理想の小学校が完成しました。

完成後は全員でそれぞれの展示模型を品評ののち、講師らの投票によりMVP及び各賞を決定して全班にトロフィーを授与の上、講師らと共に各班の記念撮影を行いました。

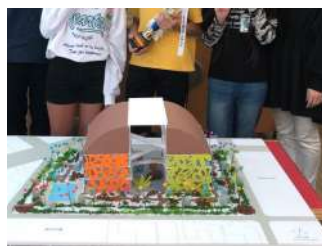
達成感と共闘感を持って互いがつくり上げた個性のある模型を眺める子供たちの姿は微笑ましく印象的で、子供たちの未来への可能性を感じることができました。



JIAメンバーがサポート



模型制作に取り組む子供たち



6班それぞれの作品を前に記念撮影

今後の活動の展望

これまでの活動を通して、我々が地域の建築家として子供たちの「ものづくり」の学習に一定の貢献ができることを実感しました。課題に応じて必要なものについて自分たちの考えを話し合うと、利便性に即した実用的な

アイデアから夢のある楽しいアイデアまで多様な意見が出てきました。コミュニケーションによる調和を図り価値観を共有してイメージを実現することは、実際の公共性に即したものづくりに通ずる体験と言えるでしょう。

今後は各地域会に波及して、自治体や教育機関との連携を図り段階的に認知頂くことで、継続的で広域的な活動として実践していけたら望ましいと考えています。



完成した模型を展示して見せ合う



トロフィー授与式の様子

建築家派遣（エコルサポート）事業

「福岡市立東住吉小学校6年生総合学習サポート」

対象：6年生の1クラス（26名）

概要：「夢の小学校づくり」をテーマに6年生が6班に分かれてコンペ形式でそれぞれ案を発表。

単元：総合的学習の時間（生徒が自発的に横断的・総合的な課題学習を行う時間）

日程：第1回目 6月25日（金）3時間目

会員によるレクチャーと課題説明

第2回目 7月16日（金）3-4時間目

学校側で調査ヒアリングを各自行い派遣会員前で計画の発表と講評

第3回目 10月7日（木）3-4時間目

第4回目 10月14日（木）3-4時間目

2日間で小学校の模型製作と発表を行い、当日各賞の発表と講評を行う。その後参観日に模型展示をして、保護者にも見てもらう時間を取る。その後も一定期間模型を学校正面玄関前の廊下に展示予定。

人員：JIA福岡地域会員（6名）

川津悠嗣、福田哲也、佐々木寿久、

有吉兼次、西村友吾、今井秀明

及び模型制作サポートスタッフ（6名）

「国際化・交流と建築家像の変遷」



栗山 政雄（福岡地域会）

■ まえがき

人は今昔様々な巡り合いの連続の中で生かされている。そして**出会い**の中で合縁奇縁の巡り合った相手方から自分は何を吸収し、何を身に着けたかが、その人の人生の**財産**であると思います。

それぞれの土地には、それぞれの**歴史文化**があります。私達は現在現代に生き、生活をしています。

しかし私達のみがその地に生きているのではなく多くの歴史の流れの積み重ねの上に私達は生かれています。

私達が生きているこの福岡の地は古代より様々な文化の**玄関口**の役割の地であり、日本の文化もこの地を經由し大陸に向い、まだ見ぬ未知の世界・文明文化に胸を焦し、**夢を追い人**であっただろうと思います。

九州そして福岡の地域は日本文化のふる里であり、宗教・芸術・学術・建築技術を育んだ場所でもあります。

その地域特性の歴史を本当に理解し生かして生活しているのでしょうか。日に日に豊かになっているのでしょうか。新しい知識文化を得る度ごとに忘れ去っていくのも沢山あります。

歴史・伝統・慣習などがそうです。歴史や文化財を単に歴史的事実や遺跡・遺構として見るのではなく、その時代に生きた人々の**生き様**や**生活**に想いを馳せ現在残っている文化財をつくった人々の**想い**・**苦勞**を偲ぶ時、はじめて歴史が現代に生きる**継承**のものとなります。

■ 536年 筑紫館（迎賓館 後の鴻臚館）

大和朝廷激動化する朝鮮半島の政治、軍事、外交、経済の玄関口を設置。日本の建築文化・その他・は、日本のあけぼのと言われ、多くの**利益**と**独占**（権利）をもたらした。

■ 538年 百濟より仏教伝来

■ 609年 太宰府政庁建立

九州の外交・軍事・貿易の拠点

鴻臚館と共に総督府としてその役割を果たした。

■ 630－894年 遣唐使を朝鮮半島を通じ唐に派遣。

894年 菅原道真（907年 唐滅亡）が中止するまでの264年間18回もの派遣が続けられた。

派遣7回目（702年）太宰府政庁造営建築主導をした**栗田真人**は4年間にあたり乗船当時の唐（長安）の最新の建築情報技術を持ち帰り、太宰府政庁造営に、そして平城京の造営にも大きな影響を与えた**実務家**と言われている。法興寺（588年）・四天王寺（593年）・法隆寺（607年）に進んで行った。この時、山上憶良（万葉集）も一緒に乗船していた。



遠の朝廷太宰府政庁跡

時の権力者（天皇・貴族・大名・僧寺院）は造営を**誇示し象徴者**と言われていた。図面と造営にあたった人は誰であるかは分からない。（一説に、総督府、城等に携った渡来人を含め秘密厳守のため造営後 毒殺されたとの記述がある。）遣唐使（乗船）の**国使**は交流の役割になって来た。

■ 1549年ころから楽市楽座が生じ、「商工業者組合」が生じ金銭を払えば営業権、販売権、運搬権の権利が得られ、利益の独占の組織構図が生まれた。大工職は大工のみに適用される「大工座（棟梁）」であった。いずれの座も**世襲と能力**の無い座は停滞していった。

■ 1837年 RIBA (英国王立建築家協会) 設定

背景とし、19世紀の**産業革命**で建築家のパトロンが王侯貴族から**民意**の企業事業者（建築主）に交代し企業を発展させるべく代理人に建築家を選び競争入札で最低価格の施工者を選びその監理は建築家で行う**職能法制度**を作った。

■ 1857年 AIA (米国建築家協会) 設立

それは民間組織で立ちあげ、当初は誰でも建築家を主張できた。「教育・訓練された**建築家**」と識別する**資格登録制度**が必須だった。

1897年資格法（建築家職能法）が確立した。立ち上げから**40年**の歳月を得、それを支えたのは、**官**ではなく「**民意**」であった。

■ 1948年 UIA (国際建築家連合) 設立

国際建築家連合（略称UIA）は、フランス・パリ15区メヌ大通り（33 Avenue du Maine）に本部を置く、世界全域の著名建築家による自主組織。設立当初は27ヶ国も現在は120ヶ国320万人に至っている。世界5地域に区分され、第一地域（西ヨーロッパ）、第二地域（東ヨーロッパ・中東）、第三地域（北中南米）、第四地域（アジア・オセアニア）、第五地域（アフリカ）。日本は、第四地域アジア建築協議会（ARCASIA）で、その加盟協会：2018年6月現在、アジア地域を横断する3つのゾーンと、21の加盟協会で構成されている。

< Zone A > ブータン、パキスタン、インド、スリランカ、バングラディッシュ、ネパール（計6ヶ国）

< Zone B > ミャンマー、タイ、インドネシ

ア、ラオス、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ベトナム、ブルネイ（計9ヶ国）

< Zone C > 中国、香港、韓国、日本、マカオ、モンゴル（計6ヶ国）

1955年 日本加盟、建築家職能の「グローバルスタンダード」の樹立を目指して活動がスタートした。

■ 1868年（明治元年）国際化・近代化と建築像

■ 辰野金吾（1854-1919）

日本で「近代建築の父」と言われている建築家。作品に東京駅・日本銀行などがある。

■ 佐野利器（1880-1956）

構造家、建築家。1911年の論文「建築家の覚悟」発表は、これからの建築界を喝破大きな影響をもたらした。

■ 前川国男（1905-1986）

ル・コルビジエ、アントニン・レーモンドの元で学び、「モダニズム建築の旗手として戦後の日本建築界をリード。近代建築の西ヨーロッパからみれば後進的であった、日本に真正の近代建築を根付かせるという「使命」を自ら課していた。自らもUIA副会長（1965年-1968年）していたが、ある事件で公正取引委員会の警告から23回に及ぶ審判で1979年（昭和45年）建築士も事業者であり、従って日本建築家協会（旧）は**事業者の団体**で「独自の報酬規程」は独占禁止法に接触の審決を受けた。

其後、理事国を辞退、その**理由**は不祥事の内外批判だった。「**我々建築家にとっては、誠に情けない事です**」と記述があった。

■ 丹下健三（1913-2005）

「**一本の鉛筆から**」 丹下健三著

日本から海外の作品・業績そして建築論を知ることができる。まさに「世界のタンゲ」の所以である。

■ 1987年（昭和62年5月11日）

新日本建築家協会（JIA） 設立総会

当時の皇太子妃殿下御臨席のもと「質量とも」日本を代表する「**専門建築家**」の組織とし**目標15,000人**、当時**6,600人**会員でスタートした。初代会長は、**丹下健三（74歳）**であった。日本・世界の政・官・財・民から関係団体の代表をお迎えし、会場溢れんばかりの盛況で、華々しく催された。

■ 1987年（昭和62年）7月28日

JIA九州支部設立総会

ホテルセントラーザ博多

正会員**473人**登録 福岡会**246人**

代表幹事 三島 庄一

■ 1987年（昭和62年）12月12日

JIA福岡会設立総会

KKRはかた

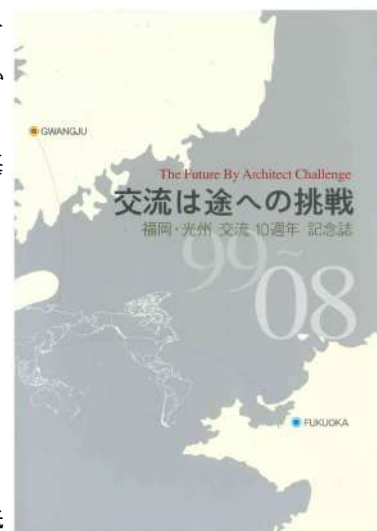
代表幹事 茂木 謙悟

（ 継ぎ期間 代表幹事 三島 庄一 ）

■ 1999年4月5日 福岡・光州・交流協定書締結

交流10年の歴史は、「**交流は途への挑戦**」タイトルで10周年記念誌（日韓語 214頁）で2008年に発行された。発行後も順調に交流が続けられていたが、韓国の政情又新型コロナ禍で、ここ3～4年交流が停滞している。徳川鎖国時も善隣国維持を進めた対馬藩主**雨森芳州**

（1668-1755）の「誠信の交わり（互いに欺かず・争わず真文をもって交わる）」交流の基を忘れてはならない。



交流は途への挑戦 表紙

■ あとがき

原稿依頼時は、コロナ禍・新株オミクロン発生の際であった。**古代・近代・現代**まで我が国の国際化交流を振り返ると、それが国家創りであった。建築の「作る・造る・創る」は、先人時代の足跡の上に存在していた。現代に於いては、JIA初代会長 丹下健三の**何故いま職能理念に基づく「建築家の職能確立」の提唱でスタートした**。しかし、当時日本建築士会連合会会長 太田和夫は祝意の中で**忌憚のない批判**「数を増やすことばかりにこだわらず真に職能を目指す者に重点をおくべきだ」と警鐘を鳴らしていた。

「職能」と「専・兼」の「士法改正」がどれほど難しいか知っていた指摘に自身は感じた。

初代会長 丹下健三から、12代現会長 六角正治まで**35年**の年月が過ぎた。しかしそれは、いまだ「途」半ばである。しかしコロナ禍の「**世界のSDGs**」世界が大きく変わろうとしている。企業「利益追求」から自然・環境に優先する「公益」の国づくりが求められている。AIAも建築家「**職能法確立**」までその闘いに**40年**歳月を要した。それを支えたのは、「官」ではなく「民意」であったと記されている。それに照らし合わせるとJIAもこれから**5年**が重要期に来ているといえる。

いつも医師と建築士の立場が比較されてきた。医療法人・福祉法人のように、たとえば「**建築家法人**」の法人格取得が悲願される。



福岡・光州 調印式

青島ビーチパーク環境整備とまちづくり ～観光地の魅力を現代の感覚で再興～

まちづくりに建築家が関わることは今や珍しいことではないながらも、行政・観光協会・地域・建築家の4者コラボによる手作り感満載の楽しい観光エリアの環境づくりとまちづくりの取り組みをご紹介します。

青島というポテンシャル

青島は宮崎市の南東に位置し、鬼の洗濯岩といわれる隆起波食台という珍しい地形のある島で、昭和37年に天皇陛下御夫妻が青島と青島神社を訪問されたのをきっかけに新婚旅行客が急増し、青島海水浴場も含め宮崎を代表する観光地となりました。

しかし、時代の流れとともに観光客は徐々に減少し、平成2年には青島最大の観光ホテルが倒産するなど青島観光の復興が宮崎市の大きな課題となっていました。

そこで、青島海水浴場ではライフガードが常駐するビーチとして平成22年に日本で最初の渚の交番がつけられたことをきっかけに、青島地区の賑わいを取り戻す気運も徐々に高まり、平成27年度より『青島に新たなビーチカルチャーをつくる』をコンセプトとして、宮崎市が青島ビーチ魅力アップ事業として青島ビーチパーク（青島BP）をオープンさせることとなりました。

青島ビーチパーク

現在の青島BPは、32年ぶりに装いも新たな新感覚の「海の家」を復活させ、全国でも名高いビーチを復権すべく、シーズン限定（4～9月）にてオープンしています。5つの海洋コンテナを仮設店舗として設置し、県内



手づくりで完成したビーチパーク

松竹 昭彦 （宮崎地域会）



外の人気店が公募出店。そして、そのエリアはシンプルにおしゃれ且つ宮崎らしいビーチスタイルを提供する場所として継続して整備し成長してきました。

その環境整備の中心的役割を担っているのが宮崎市内の建築士です。その取り組みは手探りながら、行政・地域・有志建築士による観光まちづくりで、苦労はありつつも実に新鮮で楽しいものとなりました。



ビーチパークを支える仲間達

初年度は、予算のない中宮崎市から助けを求められる形のボランティアとして関わり、次年度からは、初年度の実績を評価いただき、企画段階から深く関わることになり、青島BP実行委員会を立ち上げ、官民協働での青島地域全体のイメージアップを心がけ、毎年試行錯誤を繰り返しながら、青島BPをつくりあげています。

BP内の店舗は季節限定ながら、その空間は通年利用ですので、毎年B P委員会が中心になり、ボランティア参加による市民の力も得て整備を継続しています。青島の新たな景観づくりと心地よいみんなの居場所づくりをモットーに、シーズン前には、おもてなしワークショップと称し、フェニックスの剪定やパーク内のお掃除、テーブル・ベンチのペイントなども行っています。

具体的な整備内容

毎年、ビーチパークの利用者や出店者および管理者の要望を聞きながら、店舗となる仮設のコンテナにここ青島にしかないオリジナルの底を取り付けたり、誰もが多機能で使えるテーブルベンチを配置し、プライベートな



空間を楽しめるシェード
ボックスや海を眺めながらくつろげるロングカウンターを設置。また、パーク内に日陰をつくるための風になびくシェードを配置する等、快適な空間と景観づくりを行っています。

また、宮崎は日本一の杉の産地ですので、海岸端という悪条件ではありますが、積極的に県産の杉材をとり入れて、シンプルでSNS映えする環境整備を行い、ビーチパーク全体のイメージを向上させ、質のよい宮崎らしいビーチスタイルを提供できるように心がけています。

成果と展望

青島への観光客は、青島BPオープン前の約5万人からオープン後約14万人と急増し、現在もその人気を維持しながら認知度も県内外で広がっています。

今後も青島ビーチパークの景観整備を通じて、青島参道や青島駅前通りの活性化など青島エリア全体のまちづくりへとつなげていきたいと思っています。



夕暮れのビーチパークも楽し・・・

卒業旅行でのスケッチ



到着2日目、凱旋門

25年前に大学を卒業し同じ大学の修士課程に進むことが決まっていた私は卒業旅行ということではないのですが、興味を持っていたインドに行きたいと思い計画を考えていました。しかし、当時インドでペストが流行しているため渡航できない

状況でした。そうなればどうするかと考えヨーロッパの建築を見て歩こうと着の身着のまま往復の航空券と国際列車のパスを手配し1996年3月13日に単独で日本を立ちました。バックパッカーのスタートでした。

翌朝の14日、台北乗り継ぎで現地時間の午前7時にフランクフルト国際空港に到着し、その日の夕方にパリに到着し翌日からの建築めぐりのスタートです。例に漏れず15日はパリの凱旋門とエッフェル塔を見に行きました。翌日はサヴォア邸に行き建物を

坂本 肇（大分地域会）



ひとしきり見学し持参したスケッチブックを広げ颯爽とスケッチに取り掛かる、が……これまで中学を卒業してからちゃんとしたスケッチをしてないこともあり惨憺たる有様であり今回スケッチの企画はお蔵入りかとも考えましたがせっかくなので頑張ってみようと気持ちを切り替えました。翌日はポンピドーセンター他、こちらもいまいちシックリ来ず……



アラブ世界研究所（スケッチ）
しそれなりに走るようになったかのような感じでスケッチが完成。

そして翌々日の18日はアラブ世界研究所を訪れ反対側の歩道に陣取りスケッチをしました。前日までのふわっとした曖昧な鉛筆の線がなんとなく少し

に最後のロンシャンの教会はこの旅で唯一、日を変えて2回訪れた場所です。最初に訪れたときは雨降りですケッチが出来ず、人もいなかったため教会の中に入れないのかと思いサラッと外部を見学し戻りました。後日、中も見学できることを知りもう一度行きたいと思い中も見られ感動したことを覚えています。あれから25年。

今年50歳になりましたが、あの時の気持ちを思い返す良い機会になりました。

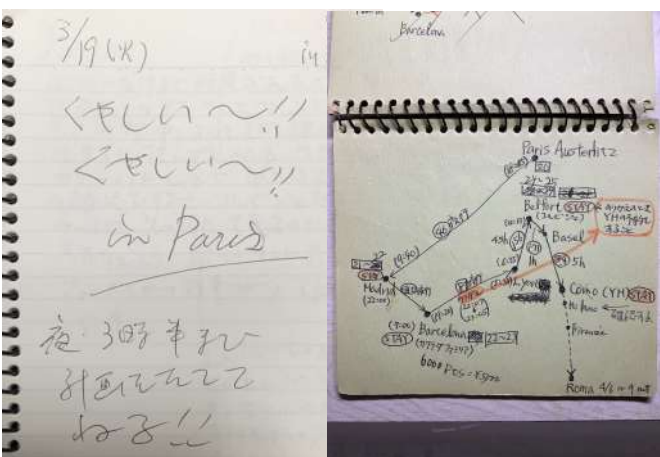


カサ・バトリョ（スケッチ）

かと思ったとたん、19日にアクシデント発生!!
なんと、詐欺にあってしまい持っていたトラベラーズチェックの2/3程だまし取られました。（こちらについては何かの機会があれば紹介したいと思います。）その時の悔しさの日記があります。そうです。これまで無計画で来ていた旅でしたが、所持金の都合で残りの計画を立てねばならなくなりました。



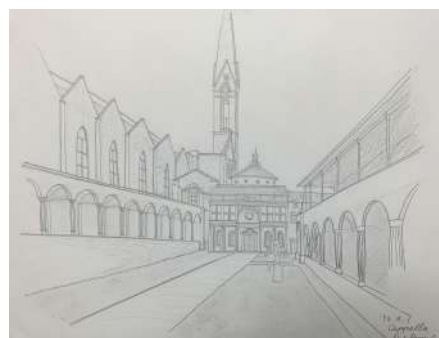
サンタ・マリア・イン・コスメティン聖堂（スケッチ）



「くやしい」メモ

初めて計画を立てたメモ

スペイン、イタリア、再度フランスと移動しスケッチもしました。4枚ほど載せさせていただきます。それぞれのスケッチには思い出があります。特

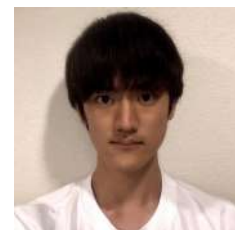


パッツィ家礼拝堂（スケッチ）



ロンシャン礼拝堂（スケッチ）

デザインレビュー2022と学生会員の抱負



九州大学 中山 亘（DR2022実行委員長）

この度DesignReview2022実行委員長を務めさせていただく事になりました、九州大学芸術工学部環境設計学科3年の中山亘と申します。現在は、2022年3月12（土）-13日（日）に九州大学大橋キャンパスで開催される大会本選に向けて、実行委員一同準備を進めております。JIA会員の皆様には、ぜひ当日会場にお立ち寄りいただければ幸いに存じます。

私がデザインレビューの存在を初めて知ったのは高校卒業後の春休みです。無事大学進学が決まり、これから4年間学ぶ事になる“建築“とは一体何者なのか、その実体を少しでも捉えるために、ぐりんぐりん(2019年大会)を訪れました。当時はプレゼンボードを見ても何も理解できず、ステージで繰り広げられている議論には全くついていくことができませんでしたが、一堂に並べられた数多の模型や、審査員に真っ向からぶつかり合う大学生の熱意溢れる姿を見るだけで、建築とはこんなに楽しいものなのかと実感し、終始興奮していたことをよく覚えています。あの日デザインレビューで直に体感した建築学生の熱気が、その後始まる私の大学生活の原動力となったことは間違いありません。

ところがこの2年間、新型コロナウイルスの影響により、我々学生はリアルでの実体験の機会を悉く失ってしまいました。2大会連続の苦渋のオンライン開催を経て、今年度のデザインレビューは3年ぶりの対面開催を予定しています。かつての私自身がそうだったように、精魂込められた作品の数々を、審査員との熱い議論を、直接肌で感じることで、この大会が新たな時代を突き進む全国の建築学生たちの原動力となることを願っています。

また、今年度から、我々デザインレビュー実行委員はJIAの学生会員として入会・登録を行うこととなりました。今年は現時点で6大学70名の学生が実行委員として参加しております。建築学生団体として見ても九州随一の規模であるこの繋がりや、大会運営だけに留める事なく、大学の垣根を越えてお互いに切磋琢磨して高め合っ

ていけるよう新しい試みを積極的に行っています。現在すでに行っている活動としては毎月の建築巡り、実行委員内コンペの開催などです。今後新型コロナウイルスが収まれば、県外への建築巡りや他建築団体との交流なども行っていきたいと考えています。

さらに、JIA関東支部、近畿支部の学生会員との交流活動も同時に企画・準備を始めております。定期的なzoom交流会に加えて、来年も継続的に交流を行っていくことを想定に、各支部が持ち回りで運営する対面交流会などの実施も計画中です。

これまでの大学3年間で私は関東・関西地方などで開催されるワークショップやコンペなどに積極的に参加してきました。九州圏外の学生と交流を深めるなかで毎度痛感するのは、九州と関東・関西とは建築学生の建築に対する熱意や盛り上がりはまだまだ大きな差が存在しているということです。私たち九州の学生が関東・関西の建築学生の輪に飛び込んで様々な刺激を受けることで、九州の建築学生が全国の舞台へと飛躍していけるよう、その礎を築いていきたいと思っています。

今後とも、DesignReviewおよび我々学生会員へのご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



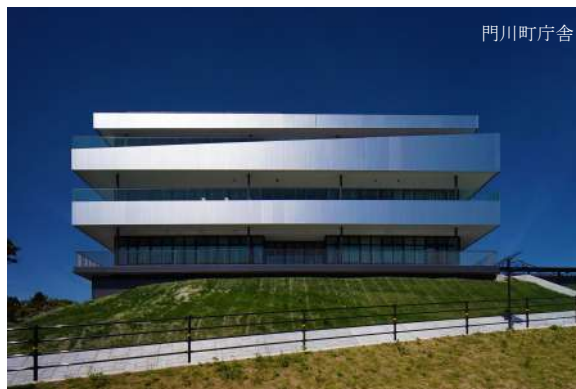
第一回建築巡り時の実行委員集合写真



葉村 幹樹 (福岡地域会)

この度JIAに入会しました葉村と申します。10年ほど前から梓設計九州支社に所属しており、オフィス（官庁・民間）やスポーツ施設（公認プール施設）、美術館（新築・リニューアル）、商業施設の設計を担当してきました。前職のアトリエ事務所では、民間施設から公共施設までの大小様々な規模の設計に携わっていましたが、より公共性の高い施設を中心に携わって行きたいとい

う思いから組織事務所に所属しました。大学では彫刻を学んでいたのですが、ものを造る意味や責任について考える日々でした。彫刻は主たる用途がないため必然的に考えざるを得なかったのですが、それは建築の設計に携わるようになってからも変わらず考え続けております。しかし、日々の膨大な業務に追われ、思考するよりも早くに結論に辿り着くことのできる道を探すばかりで、創造する上での思考する時間が少なくなって行きました。日々の忙しさに反し、何か物足りなさを感じ、刺激を受けることができる環境を求めJIAへの入会することを決めました。今のところ、業務の忙しさやコロナ渦の環境下で、なかなか機会を得ることが出来ていない状況ですが、今後、機会を見つけては皆様とのコミュニケーションをとり、より建築設計に携わるものとしての役割の重要性を再認識するとともに、より多くのものを学び、これからの社会ニーズの見越した設計を行い、都市の創造・発展及び公益に寄与できるように努めたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。



門川町庁舎



大庭 早子 (福岡地域会) ジュニア会員

6年前にブラジルから帰国し、現在は福岡と佐賀を中心に活動している大庭早子と申します。

私が感じたブラジル建築の魅力は、移民を多く受け入れてきた多民族国家として、純粹さを求めるのではなく、混血的・共生的な大らかさにあると思います。その建築空間の柔軟性は誰もが居心地がよいと感じる普遍的な空間、特に人間だけでなく植物も動物も虫も共に存在できる半屋外空間の豊かさによるものです。改めて考えると余白を持つ豊かな半屋外空間は、私が建築の「け」の字も知らなかった頃に身の回りに当たり前にあった佐賀の民家の軒下や縁側、土間、小屋裏の空間であると同時に、長谷川豪建築設計事務所スタッフとして東京で働いていた際、長谷川さんと議論していた建築の普遍性やタイポロジーにも通じるものでもあり、自分が学んできた三つの土地と建築が自分の中で一本の線で結ばれ、その実践の場として九州を選び独立しました。しかし佐賀県出身というだけで、九州の大学・九州の設計事務所出身でもない私が独立後の仕事のきっかけをつかめず苦戦していた際、アドバイスやチャンスをいただけたのがJIAに所属している福岡の先輩方だったので、自分に足りないものを身につけたいと思い、JIAへの入会を決めました。

また、最近は建築設計以外の活動も増え、2年前の佐賀県武雄市での豪雨災害をきっかけに「災害ケースマネジメント」に興味を持ち、建築的側面から暮らしの再建に向けた支援活動を行なっています。JIAのような全国に広がる団体で、建築家という職能を活かし社会に対しどんな活動ができるのか、とても楽しみにしています。よろしくお願いいたします。



casa K _ 武雄の二段高床

報告事項

③ 本部委員会・特別委員会活動報告			
1	総務委員会	下山道男	
	9/17 第3回WEB会議 ・入退会審査 ・委員会構成について ・建築家資格制度規程類改定案の修正案について：異議無し ・建築家資格制度あり方検討会設置について：準備チームの設立を総務、建築家資格制度実務、職能・資格制度委員会から委員を出す ・WG設置提案：「知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会」対応 ・ジュニア会員のあり方についての検討課題の整理案 ・会員メールアドレス調査について：各支部からアンケートを取る		
2	広報委員会	委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次	添付資料 1
	9/30 2021年度9月号 プルテン発行 10/5 本部広報会議web 10/6 12月号プルテン及び広報会議		
3	教育委員会	田中康裕	
	報告事項なし		
4	表彰委員会	鯉坂徹	
	報告事項なし		
5	建築家資格制度実務委員会	委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久 資格制度委員：下山道男	
	9/14 JIA本部建築家資格制度・実務委員会合同委員会 ・2021年度資格制度規程類改定について ・建築家資格制度の将来のあり方を検討するワーキンググループ発足にむけた提案書について 9/22 職能・資格制度委員会 ・準備委員会メンバー選出について：委員長ともう一人計2名とする ・ペン図・建築家の定義と建築家資格の定義について 9/27 申請説明書改正班会議		
6	財務委員会	作田耕一朗	
	9月28日 第2会 WEB会議 1. 今後の委員会活動について ・会員動向 2024年位には3000人程度 ・財務諸表を各支部毎に作成 ・会員増強及び会費以外の財源確保の取り組み事例報告 2. 第281回理事会について 3. その他 財務委員会の副委員長に鈴木委員（東海支部）		
7	業務委員会	前田哲	
	今月は特に報告事項はありません。 外部団体からJIA宛に照会があった場合の対応の件、業務委員会本部に確認したところ、ケースバイケースですが関連が深そうな事案については、JIA内のWG等へピンポイントでヒアリングや確認依頼を行っているとのことです。（今回の四会からのマンション約款照会はJIA約款WGに確認依頼した）		
8	全国学生卒業設計コンクール実行委員会	田中康裕	
	報告事項なし		

報告事項

④ 全国会議活動報告			
1	JIA災害対策会議	原田展幸	
報告事項なし			
2	JIA保存再生会議	田島正陽・柴田真秀	添付資料 2
10/6日WEB会議ありました			
3	文化財修復塾	鯨坂徹	
9/13 講座更新プロジェクト会議：座学の映像講座の更新について 9/16 第3回WEB会議 ・第1回HAサロン開催について：9/25（土）開催 ・修復塾とHMとの相互認証について：神奈川、鹿児島協議中 ・座学講座ビデオとテキスト作成について 9/27 講座更新プロジェクト会議：座学の映像講座の更新について 10/7 講座更新プロジェクト会議：座学の映像講座の更新について			
4	文化財ドクター	柴田真秀	
報告事項なし			
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次	
報告事項なし			
5-2	JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
下記の建築相談に対応しました 9月16日 鹿児島 トラブル 新築住宅で、車いすが通る間口が取れていない。車いすが通るように間口をお願いした。（引き戸）。間口が64cmしか取れてなく、車いすが通らない。75cmは必要だったはず			
6	JIA環境会議	福田展淳	
9/6（月）及び9/29（水）ベトナム建築家によるウェブセミナー準備会議 9/30（木）JIA環境会議・月例会議 葛西臨海水族園保存のための懇談会 10/9（土）ベトナム建築家によるウェブセミナー（環境会議気候変動ワーキング）開催			
7	JIAまちづくり会議	松島逸人	
報告事項なし			
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男	
<ul style="list-style-type: none"> 九州支部内で北福岡、熊本、鹿児島からの3件について、各地域会で報告書を提出 現地審査は「熊本大学学生会館（東光会館）」「サンアクアTOTO工場」の2件が対象となる（地域会での対応をお願いします。） 			
9	国際委員会	佐々木寿久	
10/8 第7回WEB会議・・・ARCASIA上海大会の開催について・2021年度ウェビナーの配信の件・国際交流活動支部事業助成の件・ベトナム環境会議について			
10	オンライン_リモート特別委員会	柴田真秀	添付資料 3
WEB会議ありました			
11	デザインレビュー	佐々木寿久	
報告事項無し			
12	住宅等連携会議	佐々木寿久	
9/16 住宅連携会議・・・ネット関係について 9/24 住宅連携会議・・・告示98号住宅等・改修工事用 JIAwebアンケートについて（建築3会合同意見書提出の為）			
13	CPD評議会委員会	田中康裕	
報告事項無し			

報告事項

③ 本部委員会・特別委員会活動報告			
1	総務委員会	下山道男	
	本部理事報告による		
2	広報委員会	委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次	
	11/2 本部広報会議web 11/9 本部広報意見交換会web 11/12 支部長漫遊記in長崎 12月末発行ブルテン準備をすすめています。執筆依頼中。12月13日より編集作業開始予定。		
3	教育委員会	田中康裕	
	報告事項なし		
4	表彰委員会	鯉坂徹	
	報告事項なし		
5	建築家資格制度実務委員会	委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久 資格制度委員：下山道男	
	10/11・11/8職能・資格制度/建築家資格制度実務合同委員会		
6	財務委員会	作田耕一郎	
	本部理事報告による		
7	業務委員会	前田哲	
	2021年11月26日の業務委員会にて下記の報告がなされました。 詳細割愛いたしますが、参考資料は下記URL内に格納していますので、必要に応じてご参照ください。 https://nse-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/maeda-s_nihonsekkei_co_jp/EvVCb2Wfk7NEqoCrV7gNs9UB5B9w11fCLR2pPtzepG1L9w?e=ASLoNo (新規及び継続審議事項含む：添付参考資料) 1. 「意匠法に係る設計監理約款等の件」：森副会長 2. 「社会資本整備審議会 建築分科会 建築基準制度部会」報告：所委員 3. 「業務報酬基準検討委員会」報告：青木委員 4. 「官庁施設設計業務等積算要領についての意見」報告：吉田委員 5. 「建築確認等のオンライン利用率引上げの基本計画 第三者委員会」(第1回) (12/15開催)		
8	全国学生卒業設計コンクール実行委員会	田中康裕	
	報告事項なし		

報告事項

④ 全国会議活動報告			
1	JIA災害対策会議	原田展幸	
	報告事項なし		
2	JIA保存再生会議	田島正陽・柴田真秀	
	報告事項なし		
3	文化財修復塾	鯨坂徹	
	報告事項なし		
4	文化財ドクター	柴田真秀	
	報告事項なし		
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次	
	報告事項なし		
5-2	JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
	下記の建築相談に対応しました。 10月14日 福岡 トラブル 新築住宅で外壁タイルが見本やカタログと異なる製品が届いた。タイル交換を希望しているが海外製タイルのため運送料半額を請求された。 11月25日 福岡 建築相談室の相談定例会を開催。7名の相談員出席。3件の事例報告を行った。		
6	JIA環境会議	福田展淳	
	10/9 Japan Vietnam Architecture Colloquium 実施：JIA環境会議気候変動ワーキング主査として 11/17 JIA環境会議・月例会議（欠席）		
7	JIAまちづくり会議	松島逸人	
	・11月4日(木)ZOOM会議 全国のまっつくりの情報交換、及び萌芽シート作成について		
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男	
	報告事項なし		
9	国際委員会	佐々木寿久	
	・11/19 JIA国際委員会第1回ウェブセミナー「ボーダーレス」		
10	オンライン_リモート特別委員会	柴田真秀・村上明生	別添資料 1
	11月8日、11月29日ウェブ会議あり、slackにてDX状況の報告あり、沖縄、東北、四国、東海各支部の報と各支部のウェブの利用活動状況を添付いたします。		
11	デザインレビュー	佐々木寿久	
	JIA九州支部事業委員会の報告項に移行しました		
12	住宅等連携会議	佐々木寿久	
	・10/14 住宅連携会議 ・11/8 住宅連携会議 分科会 ・11/11 住宅連携会議 ・11/18 住宅連携会議 分科会		
13	CPD評議会委員会	田中康裕	別添資料 2
	10月29日、11月26日委員会		

協力会「JIA協力会オンラインセミナー」

毎週金曜日のお昼12：30から20分間、ZOOM配信でお送りする、多ジャンルの建築系セミナーです。正会員はもとより、スタッフの皆さんの知識向上に大いに役立つ企画です。何より毎週同じ時間に、同じチャンネルで行われるセミナーですので、自分に癖付けして視聴するだけで、1年で50ものジャンルの知識が勝手に手に入る都合のいい企画です。

9月は三協立山三協アルミ社(43名参加)・ITOKI(51名参加)・TOTO(48名参加)・田島ルーフィング(39名参加)の配信を行いました。

□日時(今後の配信予定)：お昼12：30分から20分間配信

- 10月22日(金) アサヒ製鏡(内外装ガラス)
- 10月29日(金) 鹿田産業(オーダーすだれ)
- 11月5日(金) 三菱電機住環境システムズ(空調機器関連)
- 11月12日(金) アイカ工業(床材)
- 11月19日(金) 大阪ガスケミカル(木材を劣化から守る)

※11月からも続々各協力会会員が登場します。会員の皆様とスタッフの経験向上のための企画になります。お休みに簡単に視聴できますので是非ご参加ください。ZOOMミーティングID: 777 702 7081 パスコード: jia <https://zoom.us/j/7777027081?pwd=Mnh3THV3RkFldjkydTdV>

The screenshot shows a Zoom meeting interface with several technical presentations. The top presentation is titled '遮音性能' (Soundproofing Performance) and features two line graphs comparing different window types. Below it are two smaller video thumbnails of participants. The bottom section displays three product diagrams: 'HT-SYSTEM', 'IR-SYSTEM', and 'DIPS-VIT SYSTEM', each with detailed technical specifications and material lists.

This advertisement promotes ITOKI TOKYO XORK, a building that has opened in 2018. It highlights the 'ABW' (Activity Based Working) concept. The text mentions that the building is used for new work styles and is located near the 'センターオブアース' (Center of Earth) and '東京スカイツリータウン' (Tokyo Skytree Town). It also notes that it is accessible from '東京ミズマチ' (Tokyo Mizumachi). The TOTO logo is prominently displayed at the bottom.

9/17(金) 12:30-12:50

「パブリックトイレの感染症対策」

新しい生活様式に向けた
パブリックトイレのあり方について

TOTO株式会社

This block contains a poster for a seminar on 'Infection Control in Public Toilets'. It features an illustration of a person in a white lab coat with their hands held out, and a smaller image of hands being washed at a sink. The text discusses new living styles and the future of public toilets.

The screenshot shows a virtual tour of a modern interior space, likely a public toilet or a similar facility, as part of a Zoom meeting. The room is well-lit with a dark wall and a long counter with sinks. A person is visible in the background, and the Zoom interface shows multiple participants in a grid view at the bottom.

This screenshot shows a virtual tour of a restaurant interior. The room has a warm, rustic feel with wooden tables and chairs. A menu is visible on the right side of the screen, listing various dishes and prices. The Zoom interface shows participants in a grid view at the bottom.

福岡建築倶楽部

10月22日、第28回ゴルフコンペ開催が決まった。正会員1名協会の会員9名計10名が参加予定。(担当 田島正陽)

9月例会 建築家/末光弘和「自作を語る」

講師：建築家 末光弘和(株式会社SUEP)

■日時：9月8日水曜日19時00分～20時30分

■場所：TOUCH JOB (Zoom配信)

今期から福岡地域会に移籍した建築家・末光弘和氏を講師に迎え自作を語ってもらった。会場は末光氏が設計を手がけた商業施設内にあるワーキングスペースの会議室で作品見学も兼ねてレクチャーしてもらった。末光氏は東京大学や横浜国立大学(Y-GSA)等の非常勤講師を経て、2020年から九州大学大学院人間環境学研究院の准教授に就任した。東京と福岡の二拠点で活動し、プロフェッサーアーキテクトとして様々な取り組みを行っている。特に九州大学で環境をテーマにしたデザイン×エンジニアリングの教育・研究センター「BeCAT」を立ち上げ、建築家教員とエンジニアリング系教員によるデザイン×エンジニアリング教育を実践している (<https://becat.kyushu-u.ac.jp>)。その取り組み内容は我々も講義を受けたいほどの刺激のかつ魅力的なもので社会人枠も創設してほしいと氏に懇願した(今後、学生以外にも展開を検討中とのこと)。このような教育を実践するに至った経緯は、氏がこれまでの設計において実践してきた環境建築にある。「淡路様の住宅」や「ミドリノオカテラス」等他多数で環境をテーマとした建築を緻密なデータと多角的な視点で作品として残り、数多くの賞を受賞してきた。しかし、一建築家として個々の建築で成果を出したとしても、都市あるいは地球という規模において果たしてそれだけで良いのかという疑問から、これからの若い世代に氏の考えや手法を伝えていき広めていく方が効果的であり、これからの社会においても求められるものと判断し、「BeCAT」を創設するに至った。

末光氏の師である伊東豊雄氏は門下生に多くの優秀な建築家を輩出している。末光氏もその一人だが、所員時代に海外プロジェクト(特にアジア圏)を多く経験したことやせんだいメディアテークの設備計画への疑問などが本当の意味での環境建築を目指すきっかけとなったようだ。現在、環境やエネルギーといったテーマを設計に取り入れることが義務化されつつある。目に見えるデータのみを客観的に取り入れ設計をこなすことは容易い。末光氏は設計において環境(エンジニアリング)はあくまでも3割くらいではやはり建築家としての眼(デザイン)が大事であるという。今回のレクチャーはZoom配信ではあるが過去一番の参加者数となり、環境建築のトップランナーである末光氏の今後の動向が注目されていることがわかった。(担当 智原聖治)



9月8日定例会風景



例会フライヤー

福岡地域会役員会 (第4回)

■日時：2021年9月25日土曜日18：00-19：30

■場所：WEB形式(執行部のみ事務局集合)

■参加人数：11名

第3回役員会議事録確認

■審議事項

特になし

■協議事項

1.地域会忘年会について 2. オンラインセミナーについて 3.九州設計4 団体懇談会について 4 その他

■報告事項

1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告 4. 企画運営室報告

■ J I A 九州支部長崎地域会 2021年度 第 2 回例会

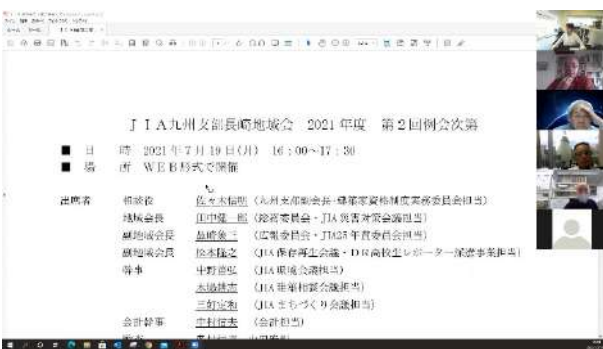
- 日時 2021年7月19日(月) 16:00~17:30
- 場所 WEB開催
- 出席 12名

報告事項

- ①2021年度九州支部組織表について
- ②支部大会はコロナ過の中で開催するかどうか検討中
- ③会員種別及び会費について
- ④JIAまちづくり委員会
6月は「HOGET」と「HafH Nagasaki SAI」を推薦し承認済

協議事項

- ①インターンシップ事業について
- ②8月開催予定「まち並研修in対馬」について
- ③長崎地域会規則について



■ J I A 九州支部長崎地域会 2021年度 第 3 回例会

- 日時 2021年9月27日(月) 16:00~17:30
- 場所 WEB開催
- 出席 10名

報告事項

- ①第 4 回支部役員会の報告
- ②JIAまちづくり委員会
毎月作品の推薦を行っている
6月は「HOGET」と「HafH Nagasaki SAI」を推薦し承認済
9月は「NAGASAKI SEASIDE HOTEL 月と海」を推薦し承認済

協議事項

- ①インターンシップ事業について
- ②支部長漫遊記について
- ③長崎地域会規則について (地域会規則担当 鼻崎象三)

- 2021 第22 回 長崎市都市景観賞 第 1 回表彰実行委員会WEB
2021年8月27日 (金) 10:00から12:00担当田中健一郎
- 2021 第22 回 長崎市都市景観賞 第 1 回選考委員会WEB
2021年10月5日 (金) 10:30から11:30担当一丸康貴

■2021年度8月（第4回）例会（メール）

日時 2021年8月20日（金）
 場所 メールによる
 送信先 48名
 JIA大分地域会 会員 19名
 JIA大分地域会 協力会員 28社、+Aメンバー（代表に送信）

◆内容

- 1.報告・連絡事項 重田会長
- ・九州支部関連
 - 1)九州支部大会・九州建築塾について
 - 2)学生会会の立ち上げについて
 - 3)九州建築新人賞について
 - ・大分地域会関連
 - 1)令和3年度木の匠育成事業
- 2.その他

■2021年度9月（第5回）例会（メール）

日時 2021年8月20日（金）
 場所 メールによる
 送信先 48名
 JIA大分地域会 会員 19名
 JIA大分地域会 協力会員 28社、+Aメンバー（代表に送信）

◆内容

- 1.報告・連絡事項 重田会長
- ・九州支部関連
 - 1)九州支部大会延期 正式決定について
 - ・大分地域会関連
 - 1)令和3年度木の匠育成事業
 - 2)大分地域会規則改定について（事前告知）
- 2.その他

■令和3年度 木の匠育成事業 基礎講座第1回

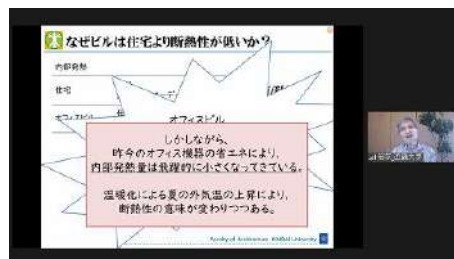
日時 2021年9月8日（水） 13：30～17：00
 場所 ZOOM（J:COMホルトホール大分202会議室）
 参加者 20名
 講師 2名、受講生 10名、聴講 8名

大分県では、豊富で充実した森林資源を積極的に活用し、林業・木材産業の活性化と健全な森林の維持増進を図ることを目的に、地域の木材を使用しての住宅や店舗など幅広い木造建築を推進する建築士等（「大分県木造マイスター」）の育成に継続的に取り組まれています。

本講習会は、大分県内の建築士等に対し、林業における素材生産から製材加工及び流通までの専門知識や改正建築基準法の施行に伴う建築物の設計・施工技術、木造・木質に関する最新情報等を習得してもらい、地域材を活用した建築物を推進する建築士等（大分県木造マイスター）を育成することを目的としています。なお、中大規模木造・非住宅建築に加え、住宅等4号建築物についても逐次触れていく予定です。

また、今年度は3か年計画の最終年となるため、既に大分県木造マイスター講座を受講・修了している方に対し、最新情報の学習等のスキルアップ講座としても位置付けています。

- ◇ガイダンス 13：30～13：45 JIA大分 重田
- ◇講座1 13：45～15：10 (CPD：1単位)
 木造建築の現況／非住宅木造建築への導入
 ミウラクハバートナーシップ / 日本文理大学教授 三浦逸朗
- ◇講座2 15：20～17：00 (CPD：2単位)
 環境時代の木造建築～木の断熱性と調質性～
 近畿大学 教授 岩前篤



新型コロナ対策でZOOM開催となりましたが、講師のお二人のお話が非常に興味深く、受講生の皆様は大変熱心に聴講されていました。

活動スケジュール

○10月

- 3日：日韓WS事業 課題の発表（敷地プレゼン）
魚谷繁礼公開セミナー
- 4日：九州沖縄設計4団体懇談会
- 8日：日韓WS事業 旦過市場現地調査
- 13日：北福岡地域会第5回役員会
- 16日：九州支部第4回役員会
※集合・Web併用形式（参加者：松島、塩釜、金子、杉野）
- 18日：福岡県気候風土適応住宅の運用基準検討会議
- 22日：日韓WS事業 中間講評会事前会議
- 23日：令和3年度児童絵画展受賞式
- 24日：日韓WS事業 中間講評会

○11月

- 18日：日韓WS事業 最終講評会事前会議
- 19日：日韓WS事業 魚谷氏北九州建築案内、前夜祭
- 20日：日韓WS事業 最終講評会
- 25日：行政（北九州市建築課）との設計委託内容に関する懇談会
参加者：三迫、永澤、杉野
- 30日：北福岡地域会第6回役員会

地域会長あいさつ

地域会長：杉野友紀

本年度のJIA日韓合同学生ワークショップの最終講評会を11月20日（土）にWebと集合の併用形式で開催し、3月間に亘った本事業が無事に終了した事を報告させていただきます。

計画当初はコロナ渦でもあったため、昨年同様の完全Webでのリモート形式を予定していましたが、社会的状況の改善による検討の結果、限定的ですが運営会場に学生に来て貰い講評を行う事が出来ました。

また、講評者である魚谷繁礼氏（2020年度JIA新人賞受賞者）と松山支部長にも会場に来て頂き、久しぶりのリアルな対面講評は、とても感動的で有意義な時間を過ごす事が出来ました。

ご協力頂きましたすべての皆様に、感謝致します。

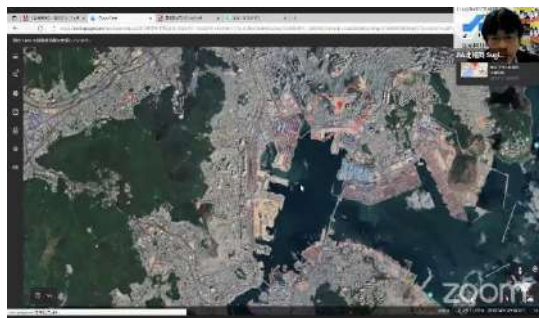
本年度はリモートでの国際交流を目的として、日本の大学は韓国の敷地（牛岩洞地区ソマク村）に対して、韓国の大学は小倉の旦過市場に対して、それぞれ提案を行いました。全体として韓国チームの提案が質・量ともに勝っていた印象を受けました。

来年度も引続き、地域会の事業として取り組んでいきたいと思っていますので、今後ともご指導・ご協力の程よろしくお願致します。

日韓学生合同ワークショップ事業【第1弾】

魚谷繁礼公開セミナー、課題の発表（敷地プレゼン）

- 日時：令和3年10月3日 日曜日 13:00-17:00
 - 場所：Webによる公開
 - 参加：塩釜、後藤、戸村、杉野（以上運営）
 - 主な内容
 - ・魚谷繁礼（JIA新人賞受賞者）氏による公開セミナー
 - ・参加チームの紹介
 - ・課題の発表
 - ・対象敷地の発表
- 韓国チーム：北九州市小倉北区 旦過市場
日本チーム：釜山広域市牛岩洞地区ソマク村



日韓学生合同ワークショップ事業

旦過市場（日本の対象敷地）の現地調査

- 日時：令和3年10月8日 金曜日 17:00-18:00
- 場所：旦過市場
- 参加：塩釜、後藤、杉野
- 主な内容
 - ・旦過市場の図面確認及び写真撮影（韓国側への資料用）



北福岡地域会 (R3年度)第5回役員会

- 日時：令和3年10月13日水曜日18：00-20：00
- 場所：Web会議
- 参加：塩釜、松島、三迫、杉野
- 主な協議事項
 - ・北福岡地域会規則の改定について⇒幹事及び監査の人数に関して協議
 - ・日韓合同WSの開催について⇒スケジュール、予算の確認
 - ・「気候風土適応住宅」の福岡県版に関する説明
 - ・次年度地域会の体制についての協議⇒今後のスケジュールについて



日韓学生合同ワークショップ事業

中間講評会事前会議

- 日時：令和3年10月22日金曜日17：00-18：00
- 場所：Web会議
- 参加：塩釜、後藤、杉野（以上JIA） アン氏（通訳）
- 主な内容
 - ・中間講評会に向けての事前会議



日韓学生合同ワークショップ事業【第2弾】

中間講評会

- 日時：令和3年10月24日日曜日10：00-17：00
- 場所：Web会議、黒崎コワーキングスペース、後藤事務所
- 参加：塩釜、後藤、金子、三迫、福田、杉野（以上運営）
- 主な内容
 - 課題：「保存でも開発でもない継承のあり方」
 - 参加大学：九州工業大学、九州産業大学、北九州市立大学、近畿大学福岡、日本文理大学、九州女子大学、慶星大学、東西大学、東亜大学、釜慶大学、釜山大学
 - 指導者：魚谷繁礼（JIA新人賞受賞者）
 - 内容：課題に対する素案の発表。各大学が中間時までの提案を、パワーポイント等を使って発表。事業の主な目的をワークショップと捉えているため、魚谷先生からの指導時間が長く取れるような運営を構成した。昨年同様にZoom用いたWebでのリモート開催であったが、昨年の経験よりスムーズな進行を行えた。講評会後は日韓学生間のディスカッションタイムも設けた。



日韓学生合同ワークショップ事業

最終講評会事前会議

- 日時：令和3年11月18日木曜日17：00-18：00
- 場所：Web会議
- 参加：塩釜、後藤、戸村、杉野（以上JIA） アン氏（通訳）
- 主な内容
 - ・最終講評会に向けての事前会議

日韓学生合同ワークショップ事業【第2弾】

前夜祭

- 日時：令和3年11月19日金曜日11：30-24：00
- 場所：北九州市内
- 参加：塩釜、後藤、金子、三迫、福田、熊谷、戸村、永澤、松島、藤本、中條、杉野
- 主な内容
 - ・北九州市内にある建築探索（魚谷氏への紹介）
担当：杉野、塩釜、石塚
 - 国際会議場、西日本展示場、中央図書館、美術館（以上磯崎）
 - 九州工業大学記念講堂、九州工業大学事務棟（以上清家）
 - 戸畑図書館（青木茂）、九工大製図室（古森）、
 - 八幡市民会館（村野）
 - 旦過市場、若戸大橋、若戸渡船、高塔山展望台、上野ビル
- ・魚谷繁礼、松山将勝を囲んで語る建築の会
- ・学生提案動画を視聴しながら皆で語り合う会

最終講評会（講評及び授賞式）

- 日時：令和3年11月20日土曜日9：45-17：30
- 場所：Web会議、黒崎コワーキングスペース、後藤事務所
- 参加：塩釜、後藤、金子、三迫、高濱、永澤、安東、戸村、中條、杉野（以上運営）
- 主な内容
 - 課題：「保存でも開発でもない継承のあり方」
 - 最終結果
 - ・最優秀賞：九州工業大学A
 - ・優秀賞（魚谷繁礼賞）：釜山大学B
 - ・優秀賞（JIA九州支部賞）：釜山大学C
 - ・優秀賞（JIA北福岡地域会賞）：北九州市立大学
 - ・優秀賞（魚谷繁礼特別賞）：釜慶大学
 - ・日韓WS賞（日本）：九州工業大学A
 - ・日韓WS賞（韓国）：釜慶大学B
 - 参加大学：九州工業大学、九州産業大学、北九州市立大学、近畿大学福岡、日本文理大学、九州女子大学、慶星大学、東西大学、東亜大学、釜慶大学、釜山大学
 - 講評者：魚谷繁礼（JIA新人賞受賞者）、松山将勝（JIA九州支部長）
 - 概要：課題に沿った提案の最終講評会。提案への講評が主な目的のため、魚谷先生に加え、松山支部長を講評者に加える。昨年同様に事前プレゼン動画による講評を主としたが、日本大学5チームは会場へ模型を持ち込み、直接の講評及び指導を受けた。韓国チームと日本の2大学はWebでのリモート方式。

北福岡地域会（R3年度）第6回役員会

- 日時：令和3年11月30日火曜日18：00-19：00
- 場所：Web会議
- 参加：永澤、戸村、松島、三迫、金子、杉野
- 主な協議事項
 - ・北福岡地域会規則の改定について⇒最終的な提示内容を確認
 - ・日韓合同WS事業について⇒完了の報告（報告資料等の作成）
 - ・総会の日時について⇒4月28日（木）で確定
 - ・次年度地域会の体制についての協議⇒今後のスケジュールについて
 - ・九州沖縄設計4団体災害ネットワーク資料の説明

2021 JIA日韓合同学生ワークショップ事業

11月19日：建築探索、前夜祭



建築探索 (巨過市場)



建築探索 (中央図書館)



建築探索 (九工大)



建築探索 (美術館)



前夜祭 (懇親会)



前夜祭 (懇親会)



前夜祭 (懇親会)



前夜祭 (事前講評会)

2021 JIA日韓合同学生ワークショップ事業

11月20日：最終講評会



集合写真



授賞式



九工大A (最優秀賞)



九工大B



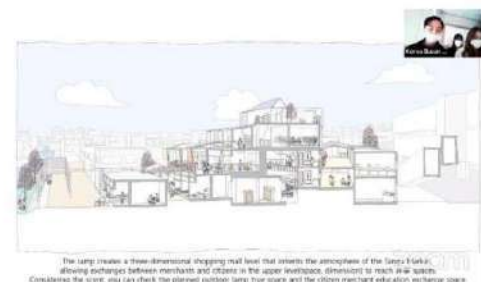
九産大



釜慶大学 (魚谷特別賞)



釜山大学C (JIA九州支部賞)



釜山大学B (魚谷繁礼賞)

우암동 소막마을 일원 釜山広域市南区 牛岩洞地区ソマク村

우암동 소막마을은 과거 소막사로 사용되었던 구조물을 거주민들이 불법 개조와 증축을 통해 생활공간으로 탈바꿈 되었으나, 아직도 일부 건물은 과거의 비늘판벽, 환기구와 지붕들의 원형이 보존되어있다. 牛岩洞(ウアマドン)ソマク村は、過去牛舎として使用された構造物を住民が不法改築や増築を繰り返して生活空間へと変貌していた。まだいくつかの建物は、過去の下見板張の壁や、ハト小屋、屋根の形状等が保持されている。

1909년, 17,000평 부지에 5동의 우사(牛舍)와 사료조리소 시설 건립, 이후 출우량의 증가로 시설 확장 1909年, 17,000坪の敷地に5牛舎と各必要施設建設後、出高量の増加により施設を拡張していった。

조선시대에는 어촌마을, 일제강점기 이후 항만매립공사 진행, 산업항구지역으로 발전
朝鮮時代には漁村、日本植民地時代以来、港湾埋め立て工事進行、工業港エリアに発展
광복 이후 해외동포 이주, 한국전쟁으로 피난민 유입, 경제성장기에 산업단지 조성으로 농촌인구 유입 国土回復後、海外同胞移住、韓国戦争で難民流入、経済成長期に産業団地の造成に農村人口の流入 소막사를 주택으로 개조하여 세입자 받아들임, 소막사 단지 일대가 거대한 집합주택으로 변용 牛舎を住宅に改造し、人が集い、巨大な集合住宅に変容していく。



建築展^{vol}23

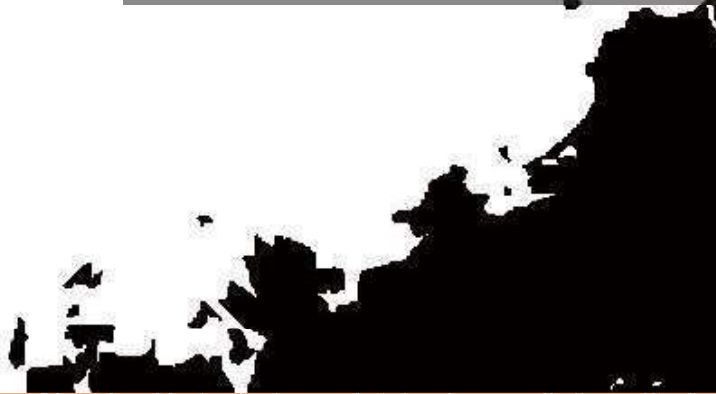
日韓合同学生ワークショップ
【第2弾】

保存でも開発 でもない継承 のあり方

【講師】
2020年度 JIA新人賞受賞
魚谷 繁礼
(魚谷繁礼建築研究所)

10月24日(日)
10:00 ~ 16:00
中間講評会
11月20日(土)
10:00 ~ 17:00
最終講評会、表彰式

JIA (公社)日本建築家協会
九州支部北福岡地域会
JIA国際支援活動支部助成事業



起源は大正時代の初め、
川のいわしを積んだ伝馬舟網ごと
川岸に荷を揚げ空き地で売買
を始めた。一組、二組、三組と市屋のような仮設
の店舗の

卸と小売りの両方の機能をもった市場として成長した。小倉湾の潮が徐々に退き始めせりだす形の木造の小売店舗。太平洋戦争の影響による市場店舗の強制撤去。戦後闇市で復活。北九州市立大学の学生が運営「大學堂」

北九州の台所
約120軒
鮮魚 味噌 漬物 豆腐

浸水被害や木造建築物の密集や老朽化。旦過市場の発生は大正2年頃。2021年再整備事業開始

旦過市場

建築展 vol.23 日韓合同学生ワークショップ

保存でも 開発でもない 継承のあり方

釜山も北九州も、規模の差こそあれ、近年、都市開発が進み、新しいビルが次々と建てられ、現代都市へと変貌を遂げている。

一方、両都市とも都市の中に残された古い下町の風情が印象的かつ魅力的でもある。

現在、そのような下町は開発に晒され、喪われ続けている。

このような下町は、居住環境や土地の有効活用の観点などから、その全てをそのまま保存するような対象になるとは考えにくい。

かといって開発により全てが取り壊されてしまうのも惜しいように感じる。

このような下町の風情を、そのまま全てを保存するでもなく、そのまま全てを取り壊して開発するでもない後世への継承のあり方はないだろうか？

一級の文化財とはいえない古い建築群についても再評価され始めている現在、その継承のための提案は、釜山や北九州に数多く残存する、対象地域以外の歴史的な下町的エリアにおいてはもちろん、国内外、様々な都市の同様のエリアにおいても有効たりえるだろう。

作成 魚谷繁礼 魚谷繁礼建築研究所



牛岩洞地区
ソマク村

旦過市場

釜山大學
東西大學
東亞大學
釜慶大學

参加チーム

日時 10月24日(日) 10:00 ~ 16:00 : 中間講評会
11月20日(土) 10:00 ~ 17:00 : 最終講評会、表彰式

講師



2020年度 JIA新人賞受賞
魚谷 繁礼
(魚谷繁礼建築研究所)

九州支部北福岡地域会会員

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 浅田 典生 | 久保 直 | 戸村 一樹 |
| 安東 崇夫 | 熊谷 平一郎 | 豊川 裕子 |
| 安東 秀夫 | 後藤 友哉 | 永澤 正哉 |
| 石垣 充 | 佐久間 治 | 中條 雅文 |
| 石川 哲夫 | 佐藤 真紀 | 野田 幸三郎 |
| 石塚 直登 | 塩釜 直人 | 服巻 良樹 |
| 瓜生 雅勝 | 白川 直行 | 東 政志 |
| 衛 藤 衛 | 杉野 友紀 | 福田 展淳 |
| 大久保 裕夫 | 鈴木 基正 | 藤本 孝行 |
| 大橋 久一 | 平 憲治 | 古森 弘一 |
| 小川 宏 | 高 嘉 千年 | 松岡 伸二 |
| 小原 光晴 | 高瀬 松之助 | 松島 逸人 |
| 加藤 史衛 | 高橋 雅彦 | 三迫 靖史 |
| 金子 英造 | 高濱 和久 | 満井 輝吉 |

九州支部北福岡地域会所属事務所

- | | | |
|--------------------|------------------------|-------------------|
| (株) A T O M 建築設計室 | (株) 小林 建築設計事務所 | (株) 東畑建築事務所 北九州支所 |
| R & B 設計室 (建築) | (株) 佐藤真紀 & FUN 建築設計事務所 | (株) 東洋アンドアソシエイツ |
| (株) 安東建築設計事務所 | (株) 白川 直行アトリエ | (株) 中條雅文建築設計事務所 |
| 衛 藤 建築研究所 | (株) 杉野建築設計事務所 | 野田 建築設計事務所 |
| (株) 大久保計画アトリエ | (株) スズキ 設計 | (株) 古森弘一建築設計事務所 |
| (株) 小川建築設計事務所 | (株) 西部交通建築事務所 | PRAISE一級建築士事務所(株) |
| (株) 加藤建築事務所 | (株) 大 建設計 | (株) 満井 設計 |
| (株) 金子英造建築設計事務所 | 平 建築設計事務所(株) | (株) 洋 建築計画事務所 |
| (株) 木賀 設計事務所 | (株) タカシマ 建築設計 | ワークボックス一級建築士事務所 |
| (株) 楠木建築設計事務所 | (株) 高橋 環境建築設計 | 北 九 州 市 立 大 学 |
| (株) 熊平建築設計事務所 | (株) 豊川 設計事務所 | 九 州 工 業 大 学 |
| (株) 河野建築設計事務所 | (株) 高浜 設計事務所 | 西 日 本 工 業 大 学 |
| (株) ごとう計画・設計 福岡営業所 | (株) トーケン 設計 | 九 州 女 子 大 学 |

中間・最終講評会共、当日 Live 配信を予定しています。詳細は当地域会ホームページにてお知らせ致します。(QRコード参照)
また、このワークショップは CPD 登録講習予定(各5単位)ですので、単位取得希望の方は各講評会の2日前までにメールにて事務局に申込をお願いします。
<要名前・CPD番号>※事務局の方より Zoom 情報を案内致します。



DESIGN BY SUGINO ARCHITECTS OFFICE

10月例会 建築家/百枝優・佐々木慧「自作を語る」

講師：建築家 百枝優(百枝優建築設計事務所)

建築家 佐々木慧 (axonometric株式会社)

モデレーター：松山将勝 (株式会社松山建築設計室)

■日時：10月27日水曜日18時30分～20時30分

■場所：FAIRBANKS (Zoom同時配信)

今回のレクチャーは、今、福岡の若手建築家で常にその動向が注目されている百枝優氏と佐々木慧氏に、自身の建築について過去・現在・未来という視点で語ってもらった。例会は2部構成で、1部は各氏によるレクチャー、2部は福岡のご意見番である松山将勝氏と両氏のトークセッションで行われた。百枝優氏は九州大学芸術工学部を卒業後、横浜国立大学大学院Y-GSAを修了し、隈研吾建築都市設計事務所に入所。2014年に独立のため、福岡へ戻って設計活動を開始。氏の代表作とも言える2016年「Agri Chapel」ではゴシック教会を想起させる空間を独創的な木架構で表現し、数多くの賞を受賞している。続く2018年には「Four Funeral Houses」、2019年に「Sakura Passage Funeral Hall」、2021年に「Farewell Platform」と同一のクライアントから3つの葬祭場の設計を依頼されており、いつも何か面白いものを創ってほしいというオーダーに、場所性と機能性を単純な図式と構造（木架構）により、美しい空間へと昇華している。しかし、現在ではコロナ禍で仕事も減り、作品をつくれるような質の仕事の依頼とそうでないものとの葛藤があるという。しかし、建築家がこれまで誰も見向きもしなかったローコスト大型物販店舗を、建築として可能性を見出し、概念や価値を変えるような作品づくりにチャレンジしているという。自分のスタイルに「作家性」と特に「批評性」が必要だという氏は、これから建築家として更なる飛躍が期待される。

佐々木慧氏は百枝氏の大学の後輩にあたり、大学卒業後は東京藝術大学大学院を修了し、藤本壮介建築設計事務所に入所。2020年にaxonometric株式会社を福岡で設立。実作をつくるチャンスが少ないものの、一つ一つの作品は実験的で建築の型に捉えられない自由さがある。日本を飛び越え、海外コンペにチャレンジし評価も高い。現在設計中のプロジェクトでは地域性を独自の視点で切り取り、建築に落とし込む手法を説明。マクロからミクロまでのスケールを行き来するそのスタイルは、そこに見落とされるものを拾い出し発見することでそれを一つのデザイン要素として集め集積し、建築として表現している。感覚的なものと実直なものとのバランスが氏の魅力だろう。

両氏のレクチャーを終え、彼らがアニキとして慕う松山氏とのトークセッションでは、個人的な話題から今後の建築家としての彼らについて、多岐に渡った。その中で30代の建築家として皆が抱える「仕事のつくりかた」に言及したとき、松山氏からは「とにかく若い内は何でもやれ」という力強い言葉が贈られた。それを聞いた両氏は背中を押されたかのようにどこにも安堵感という今まで悩んでいたものが吹切れたようなそんな印象を受けた。「作品」をつくり続けることが建築家としての存在意義であるが、仕事の質と自分のプライドが折り合わないことがよくある。「巨匠」の時代は終わり、仕事をいかに依頼されるかという「仕事のつくりかた」が問われる時代にきていると思う。「作品」より先に「人間性」が求められ、それにより「作品」が生まれるかどうかの境界があると思う。両氏は建築家として素晴らしい才能と独特な人間味がある。福岡から世界へと今後の彼らがどのような「作品」をつくっていくのかとても楽しみである。(担当：智原聖治)



福岡地域会役員会 (第5回)

- 日時：2021年10月23日土曜日17：00-18：30
- 場所：天神ビル11階3号会議室
- 参加人数：10名
- 第4回役員会議事録確認
- 審議事項
入退会について 資料に記載 事前にメールにて審議済
- 協議事項
1.地域会忘年会について 2.省エネ法 気候風土適応住宅について 3.地域会規約について 4 その他
- 報告事項
1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告 4. 企画運営室報告

建築家資格CPD担当

- 10月12日より登録建築家新規登録募集
- 11月1日より登録建築家更新・再登録受付開始
(担当：市川清貴)

福岡建築倶楽部

- 建築倶楽部は10月22日ゴルフコンペ開催、JIAは7名参加。
(担当：田島正陽)

デザインレビュー

- 10月11日：学生実行委員とオンライン会議
- 11月23日：学生実行委員と対面会議
(担当：池浦順一郎)

建築相談

- 10月から11月は下記の相談対応を行いました。
- 10月14日 福岡 トラブル 新築住宅で外壁タイルが見本やカタログと異なる製品が届いた。タイル交換を希望しているが海外製タイルのため運送費半額を請求された。
- 11月25日 福岡 建築相談室の相談定例会を開催。7名の相談員出席。3件の事例報告を行った。また11月25日は相談員相互の事例の検証、相談回答の統一化を目的とした建築相談定例会を事務局にて行いました。
- (11月相談定例会参加者：酒見・井上・高司・武本・樋口・川津・有吉 計7名) (担当：有吉兼次)

協力会「JIA協力会オンラインセミナー」

毎週金曜日のお昼12：30から20分間、ZOOM配信でお送りする、多ジャンルの建築系セミナーです。正会員はもとより、スタッフの皆さんの知識向上に大いに役立つ企画です。何より毎週同じ時間に、同じチャンネルで行われるセミナーですので、自分に癖付けして視聴するだけで、1年で50ものジャンルの知識が勝手に手に入る都合のいい企画です。

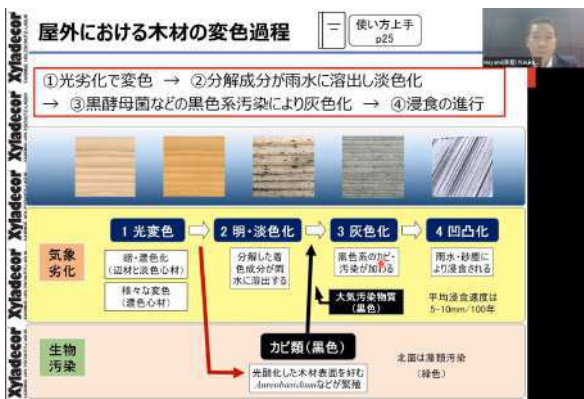
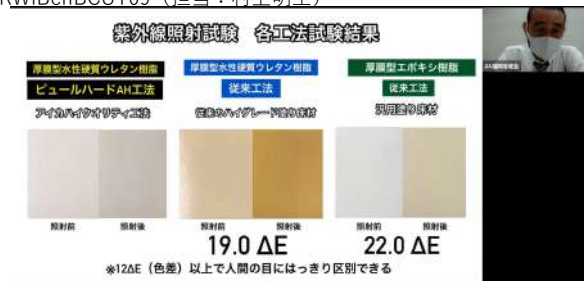
11月はアイカ工業(35名参加)・大阪ガスケミカル(27名参加)・九州木材工業(25名参加)の配信を行いました。

□日時：お昼12：30分から20分間配信

今回は 12月3日(金)三菱電機住環境システムズ「お部屋の空気を24時間循環浄化 ヘルスエアーシリーズ ～新たな日常の構築に向けた新技術～」を配信いたします。

会員の皆様とスタッフの経験向上のための企画になります。お昼休みに簡単に視聴できますので是非ご参加ください。

ZOOMミーティングID: 777 702 7081 パスコード: jia
<https://zoom.us/j/7777027081?pwd=Mnh3THV3RkFjdjkydTdV>
 RWIBenBCUT09 (担当：村上明生)



地際部の比較 (左：素材 右：処理材)



■支部長漫遊記

- 日時：2021年11月12日（金） 18：00～夕食を囲んで開催
- 場所：NAGASAKI SEASIDE HOTEL 月と海
〒851-0241 長崎県長崎市茂木町2 1 9 0 - 7
- 参加人数：16名
対談者：一丸康貴、佐々木翔、木村洋介、荒木康佑、青木康浩
ワザパー：円酒昂



予告

- 〈長崎建築家セミナー2021 WEB公開〉
教授 安武敦子氏 講演会と忘年会
- ・日時：2021年12月17日（金） 18：30～（Zoom）
- ・場所：HafH Nagasaki SAI 長崎市古川町5 - 2 1
会場参加人数 2 5 ～ 3 0 名まで



熊本地域会10月例会

JIA九州支部熊本地域会 2021年度 第6回 月例会 結果

日時 2021年10月28日(木) 18:30~21:00

場所 熊本市民会館7会議室

出席者 14人

開会 18.30 : 出席者確認、開会の辞

1.審議事項、協議事項

1-1: 12月ライティングパーティーについて、中止後の企画を考える
→12月末までの状況を見て継続判断する

1-2: 来年の作品展の担当について→林田さん、吉永さんが担当する。
トークセッションの企画を策定する

1-3: 熊本地域会規則について→12月まで継続審議

1-4: 忘年会、お祝い事の開催について→古川さん 荒木賞、柴田さん本部理事、原田さん災害対策委員長+WG長→11/25 18.30

2.報告事項、確認事項

2-1: 10月16日九州支部役員会についての報告 →堀田から報告(会員減少傾向、支部長漫遊記) 原田さんから災害WGについて報告

2-2: 熊本地域会メンバーの方のLINE使用状況についての確認(今後メーリングリストをLINEに切り替えるかどうか)

→利用率半数程度、もう少し利用率が上がってきってから導入する

2-3: 同仁堂4F 12/3キャンセルと2022.12.2仮予約のお知らせ→堀田から報告、異議なし

3.その他

・なにかあればそれぞれに発言をお願いいたします。→25年賞現地審査対応について(松下さん)

4.第2回 CPD認定講座 19.30-21.00

【Part 1】

・題名: 原泉荘・備於斎・新作2題についての講話

・講師: 丹伊田 穰 (JIA熊本地域会)

【Part 2】

・題名: 坂本村被災住宅調査報告についての講話

・講師: 松下隆太, 柴田真秀, 森下 修 (JIA熊本地域会)

丹伊田様, 松下様, 柴田様, 森下様 お疲れさまでした, 勉強になりました。



熊本地域会11月例会、忘年会

JIA九州支部熊本地域会 2021年度 第7回 月例会 結果

日時 2021年11月25日(木) 18:30~21:00

場所 紅蘭亭 下通店

出席者 11人

1.審議事項、協議事項

1-1: 12月の行事について

12/4 役員会

1-2: 熊本地域会CPDアーカイブス

→古川さんより CPD講座を若手等に配信できるようにPDF化しいつでも閲覧できるようなアーカイブを作成する

講師予定者はコロナ禍が収束するまでは会員が持ち回りで担当する。

1-3: 国土交通省へのJIA意見書について

→添付書類により古川さんから説明

2.報告事項、確認事項

2-1: 次年度地域会役員改選について、事業担当変えについて

→来年度 会長、副会長交代の案について 特段異論なし、事業担当については、作品展担当者のみ前回決定済み

その他は、どの担当を希望するか前もって検討していただく。

3.その他

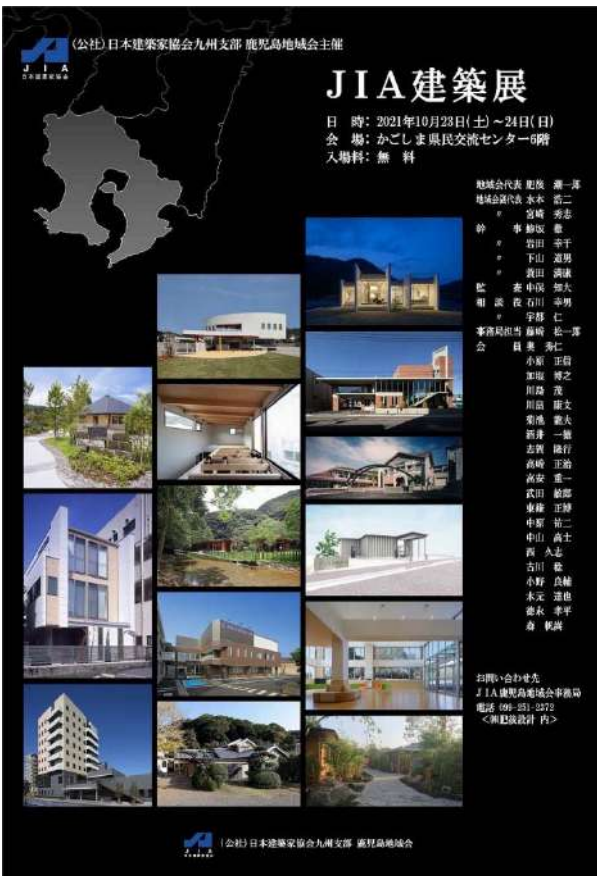
古川さんのこの度の荒木賞、(昨年の防災協会理事長賞)受賞おめでとうございます。

柴田さんの本部理事の大任おつかれさまでした。

■ JIA建築展

- 日時 2021年10月23日(土)～24日(日)、
- 場所 かごしま県民交流センター

- 2021かごしま住まいと建築展と同時開催
- 会員作品パネルの展示
- KIRA (韓国全羅北道建築士会) 作品パネルの展示
- 学生作品パネル・模型の展示



建築展ポスター



建築展開催状況

■ JIA_Kagoshimaオープン・レクチャー2021

- 日時 2021年11月12日(金) 18:30～
- 場所 マークメイザン (鹿児島市名山町9-15)
- 出席 対面26名+Zoom視聴

- JIA福岡地域会 鮎川透氏によるレクチャーを開催。
Web会議サービスZoomによる配信も併用。
演題: 「木質化・自作を語る」



オープンレクチャー開催状況



フライヤー

編集後記

数年一度の寒波訪れ、新種株の不安と終息に向かっている期待感が漂う2021年12月末。いつもの年の瀬が少しずつ戻ってきていることと思います。

今回もお忙しい中、執筆を快く受けていただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

2021年6月に福岡地域会 西岡弘さんが名誉会員になられました。称号授与と本当におめでとうございます。現在のJIAを憂い、未来のJIAへ思いを辛口に執筆いただきました。いつも道標を示していただけることに感謝し、今後ご意見番としてご指導よろしくお願いたします。今回で3回目となる「支部長漫遊記」は11月12日長崎で開催されました。今回も感染症対策のため、会場を貸し切り、参加人数を制限しております。発表者半分为構造家、支部長が斬る・斬られる？という新たなスタイルでの開催となりました。支部長からの激励、批評そして同世代建築家との繋がりは建築人生の大切な財産となっていくはずです。4時間半を親しみやすい文章と写真で鼻崎さんに執筆いただきました。「九州大学BeCATの取り組み」を末廣さんに執筆いただきました。学生時代に環境というキーワードを通じて建築学の習得と社会実測を両方実体験できる環境を大変羨ましく思いながら、現在大学で取り組まれている最先端の教育現場を教えてくださいました。西村さんの「建築家派遣エコルサポート」ではJIA会員が市内の小学校の総合学習の時間帯に出向き、レクチャーや模型づくりのサポートを行う活動を報告いただきました。みんなで協力し、ものを作り上げていく子どもたちの真剣な姿勢、純粋な思いは将来、新しい未来を作り出し続けていくはずです。栗山さんの「国際化・交流と建築家像の変遷」では様々な歴史の時間軸に沿ったJIAの変遷をわかりやすく紹介いただきました。改めて歴史の積み重ねの上で生かされていることに感謝し、国際交流の大切さを考える機会をいただきました。10周年記念誌タイトル「交流は途への挑戦」は当時の先輩方の思いが詰まったメッセージにも感じます。松竹さんの「青島ビーチパーク環境整備とまちづくり」では官民協働そして地元の建築士有志の思いでつくりあげる地域の価値（観光力）は素晴らしく、青島BPを皮切りに今後も宮崎の魅力箇所が増えていくことと思います。坂本さんの「卒業旅行でのスケッチ」では当初無計画な旅がTC盗難危機から残りの所持金で名建築を巡りその時のスケッチが掲載されています。25年経過したアナログな紙と鉛筆の線には当時の思い出が染み込んでいるはず。インターネットがない時代の旅行記やTC被害額も気になるところです。DR2022実行委員長を務める中山さんに「デザインレビュー2022と学生会員の抱負」を執筆いただきました。DR2022が中山さんの体験と同じように次の世代の建築学生のもう一つの原動力となっていくはず。ぜひ3月12日、13日は会場にご来場いただき熱き建築学生を応援していただければと思います。「わさもん」では新入会員の葉村さん、大庭さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆していただきました。対面で新入会員にお会いできない時期が続きましたが、来年は対面で活動できる機会が増えてくると思います。これからよろしくお願いたします。来年も会員の皆様に九州支部の様々な情報を伝え、そして会員同士の繋がりを感ずることができる誌面づくりに努めていきますので何卒よろしくお願申し上げます。

広報副委員長 有吉兼次

